

日南町告示第22号

令和5年第5回日南町議会定例会を次のとおり招集する。

令和5年8月30日

日南町長 中 村 英 明

記

招集年月日 令和5年9月5日

招 集 場 所 日南町役場庁舎 議場

○開会日に応招した議員

高 橋 洋 志君

荒 金 敏 江君

大 西 保君

近 藤 仁 志君

荒 木 博君

岡 本 健 三君

櫃 田 洋 一君

山 本 芳 昭君

○9月27日に応招した議員

岩 崎 昭 男君

○応招しなかった議員

な し

令和5年 第5回(定例)日南町議会会議録(第1日)

令和5年9月5日(火曜日)

議事日程(第1号)

令和5年9月5日 午前9時20分開会

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

出席議員(8名)

2番 高橋洋志君

3番 荒木博君

4番 荒金敏江君

5番 岡本健三君

7番 大西保君

8番 櫃田洋一君

9番 近藤仁志君

10番 山本芳昭君

欠席議員(1名)

6番 岩崎昭男君

欠員(1名)

事務局出席職員職氏名

局長 浅田雅史君 書記 花倉順也君

説明のため出席した者の職氏名

町長 中村英明君 副町長 角井学君
教育長 青戸晶彦君 総務課長 實延太郎君
地域づくり推進課長 島山圭介君 建設課長 渡邊輝紀君
住民課長 高柴博昭君 農林課長 坂本文彦君
福祉保健課長 出口真理君 教育次長 段塚直哉君
教育課長 三上浩樹君 会計管理者 長崎みよ君

議長挨拶

○議長（山本 芳昭君） おはようございます。令和5年第5回定例会に御出席をいただき、誠にありがとうございます。

先月15日に上陸をいたしました台風7号の影響で、鳥取県内では公共土木施設や農林施設など多くの被害が発生し、最大853世帯、1,814名が孤立するなど、甚大な被害となりました。被災をされた皆様にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

また、今年の夏は大変な猛暑でありました。現在も暑い日が続いておりますが、ところどころで稲刈りも始まり、秋の気配も感じられるようになりました。今期定例会は、補正予算をはじめ条例の一部改正、令和4年度決算認定などの議案が付議されております。議員各位におかれましては、非常に長い期間の議会となりますが、活発な議論と慎重な御審議をお願い申し上げます。また、執行部各位におかれましても、議会運営に当たり、格段の御協力をいただきますようお願いを申し上げます。冒頭の御挨拶いたします。

午前9時20分開会

○議長（山本 芳昭君） ただいまの出席は8名です。定足数に達していますので、令和5年第5回日南町議会定例会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、タブレット日程ファイルのとおりです。

タブレットの令和5年第5回定例会フォルダの報告書フォルダーから説明員の報告ファイルをお開きください。地方自治法第121条の規定により、本定例会に出席を求めた者は、報告書のとおりです。

次に、例月出納検査ファイルをお開きください。本町の監査委員から、令和5年6月21日、令和5年7月18日及び令和5年8月17日付をもって、地方自治法第235条の2の規定による例月出納検査の結果については、報告書のとおりです。

次に、議員派遣の報告ファイルをお開きください。本日までに議長において決定した議員派遣の件については、報告書のとおりです。

次に、産業振興センター経営状況ファイルをお開きください。町長から、令和4年度一般財団法人日南町産業振興センターの経営状況について、地方自治法第243条の3第2項の規定により報告がありました。

次に、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価ファイルをお開きください。本町の教育長から、令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により報告

がありました。

以上で報告を終わります。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（山本 芳昭君） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員は、日南町議会会議規則第125条の規定により、議長において、7番、大西保議員、8番、櫃田洋一議員の2名を指名します。

日程第2 会期の決定

○議長（山本 芳昭君） 日程第2、会期の決定を議題とします。

今期定例会の会期は、さきに議会運営委員会に諮問し、答申を得ていますが、その会期は、本日9月5日から9月27日までの23日間です。

お諮りします。今期定例会の会期は、議会運営委員会の答申のとおり、本日9月5日から9月27日までの23日間とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本 芳昭君） 異議なしと認めます。よって、会期は、本日から9月27日までの23日間に決定しました。

つきましては、今期定例会の運営について格別の御協力をお願いいたします。

○議長（山本 芳昭君） ここで執行部からの発言が求められていますので、これを許します。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 改めまして、おはようございます。9月の定例議会の開会に当たりまして、一言御挨拶をさせていただきたいと思っております。

先ほど議長さんの開会の言葉にもありましたけれども、重なる部分もありますが、7月から8月にかけて全国的に記録的な猛暑が続きました。また、台風も大型化し、県内の中・東部を中心に、盆の15日にかけて約700ミリを超える豪雨となり、過去20年間最大の大災害の規模となりました。被災された皆様方に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りをしたいと思います。幸いに命に関わる内容は少なく、土砂崩れによる家屋の倒壊などもなく、ある意味ではよかったというふうに思っておりますが、今後、他人事とは思わず、命を守るを全面的に、地域あるいは関係機関と協力、連携してまいりたいというふうに思っております。

さて、秋の稲刈り作業が始まりました。収量、品質等はおもすりをしないと分かりませんが、私的には、見解でございますが、平年並みではないのかなというふうには思っております。現時点では大きな倒伏もあまり見られない状況ではございますので、作業的には効率的な作業ができるのではないのかなというふうに思っております。

それを受けましてといいましょうか、関連でございますが、8月の30日でございます、鳥取西部農協のほうの米の概算の単価というのが公表されました。生産コストの高まりということの対応等も含まれまして、日野郡産のコシヒカリのほうですが、1等米で6,500円という概算金の内容になっております。昨年よりも14.8%増ということで、1袋当たりになります、1俵当たりになるのかな、840円ということで設定がしております。また、ヒメノモチのほうでございますが、昨年同様の7,000円ということで、1袋当たりですが、という単価で、横ばいでございます。鳥取の西部農協の御努力に感謝申し上げたいというふうに思ってますし、今後も適正価格の販売というところに御尽力いただくことをお願いを申し上げたいというふうに思っております。

次に、新型コロナワクチンの追加接種のお話ですが、秋の開始接種ということであります。対象となる皆さん方につきましては、生後6か月以上の全ての方ということで、本町におきましては9月の20日から年度末にかけて実施をしたいという、今、予定をしております。近日にはなりますけれども、接種券の発送を予定しております。重症化のリスク軽減等も踏まえまして、前向きに御検討いただくことを町民の皆さんにお願いを申し上げたいというふうに思っております。

次にではあります、今年の9月といいましょうか、今月ですけども、敬老の日というところがありますので、今回、今年ですけども、該当になられる方のちょっと数字を把握しておりますので、お知らせをしておきたいというふうに思っております。今年が米寿が78人、それから白寿が7人、100歳となられる方が9人、そして、100歳以上の方が9人ということで把握しております。引き続き健康のほうに御留意いただきながら、長寿をお祈りをしたいというふうに思っております。

次に、現在の私たちの暮らし、経済活動に大きな影響を与えております物価高騰、あるいはエネルギー高騰があります。政府のほうは、ガソリン等について9月までの補助金を拡充し、期間延長という形、年末までですが、というのを発表されております。175円程度に抑えたいという方針の報道を聞いております。原油の原産国の生産量の減や円安による高騰と把握しております。ひとまずは安堵するところでございますが、限定的でもありますので、今後の動向も注視しながら、あるいは要望等もしていきたいというふうに思っております。

今回の補正予算をお願いをしておりますのが、一般の会計ほか病院会計など4つの会計、総額で9,700万円余りをお願いする内容としております。具体的には、物価高のエネルギー高騰等に対する町民生活の支援に加え、町民の命と健康を守るための防犯・防災対策、健康づくりの充実、強化、あるいは住民サービスの向上を含め、令和4年度の事業評価等を踏まえた取組等につきまして積極的に計上し、迅速に対応する予算としております。その財源としましては、内部留保しておりました残りの新型コロナの臨時給付金を全額計上し、不足する財源につきましては財政調整基金を出動させ、喫緊の諸課題に対応してまいりたいというふうに思っております。

最後になりますが、本定例会に専決処分1件、条例の一部改正1件、財産取得が1件、補正予算が4件、決算認定につきましては9件、報告1件、上程をさせていただいておるところでございます。御審議の上、御承認を賜りますようお願い申し上げまして、私からの冒頭の御挨拶とさせていただきますと思います。どうぞよろしくお願い致します。

日程第3 一般質問

○議長（山本 芳昭君） タブレットの一般質問フォルダーをお開きください。

日程第3、一般質問を行います。

一般質問は、通告順にこれを許します。

7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 先ほど、議長、町長とも猛暑という説明もございました。私も昨日、町の老人クラブ連合会のグラウンドゴルフ大会に行ってまいりまして、大変、それでもやっぱり若干8月の猛暑がちょっと和らいだかなという感じしますが、外での農作業、また活動につきまして、十分な水分補給と休息を取りながらやっていただきたいなと思っております。

では、一般質問に入ります。このたびは3点について質問いたします。1点目は養豚農場について、2点目はまち・ひと・しごと総合戦略について、3点目はグリーンDream計画について行います。

では、養豚農場の今後の取組について行います。6月12日より農場の解体工事が開始されました。解体完了は10月末と聞いております。現時点でどこまで解体が進んでいるのかを聞きます。また、土地の造成や施設の計画等がどこまで進んでいるのか伺います。

次に、第2期まち・ひと・しごと創生日南町総合戦略について行います。去る6月30日に、令和4年度の取組の成果と今後の取組について、第三者評価委員会が開催されました。町長は委員会冒頭挨拶をされ、その後、別の公務のため退席されました。町長は委員会での議論や提案等の結果の報告を受けられましたか。受けられたのであれば、どのようなことを言及されたのかをお伺いいたします。

最後に、町長自ら発せられましたグリーンDream計画についてであります。町の環境問題を推進する組織として、庁舎内の各課が参画して、環境基本計画推進連絡会議が7月に開催されましたが、参加した各課とどのような内容を協議、検討されたのかをお伺いいたします。

以上、よろしくお願い致します。

○議長（山本 芳昭君） 執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 大西保議員の御質問にお答えします。

最初に、養豚の農場についてということで、現時点の農場の計画はどのような状況な

のか。また、町として今後どのような取組をされるのか伺うという御質問でございます。まず、農場計画の状況につきましては、現在、県の許認可の手続等に向け、設計事務所において土地造成の製図を進めている段階であります。豚舎でありますとか上水設備などの詳細については、手続を進める中で検討していく考えであると事業者からお聞きしているところでございます。

次に、今後の町の取組でございます。第1回の養豚場の建設に係る連絡協議会を踏まえ、事業者要望を行った2つの事項であります、処理水を河川に放流しない方策の検討と、解体工事終了までの地元の事業計画の説明について、確実に実行されるよう、随時進捗状況を確認しながら、事業者に対して必要な協議、働きかけを行ってまいります。また、地元関係者と町で構成する養豚場の建設に係る連絡協議会を定期的開催し、事業者の状況等について情報の共有や意見交換を行うとともに、県も情報共有を図りながら、連携して対応してまいりたいと考えております。

次に、まち・ひと・しごとの総合戦略について。6月30日に第三者評価委員会が開催されましたが、町長は委員会の結果の報告を受けられたのか。受けられたのであれば、どのような言及をされたのかを伺うという御質問でございます。本年の6月のまち・ひと・しごと創生の日南町人口ビジョン・総合戦略第三者評価委員会につきましては、私自身も出席し、昨年度の取組の進捗の確認等をさせていただき、23項目のうち半数以上が既に達成または順調との評価で、コロナ禍の3年間は地方創生を進めるためには非常に厳しい状況ではありましたけれども、一定の成果は現れているものと認識しております。しかしながら、社会増減のプラス推移でありますとか、ふるさと納税の寄附金、寄附額などの取組が遅れている項目につきましては、取組を加速させるような方策を早急に検討、実施するよう、副町長や担当課長のほうに指示を行ったところでございます。

次に、遅れております10項目で、特に進捗率のゼロ%の外国人技能実習生計画11人に対してゼロ人、総合診療医1人に対してゼロ人、子育ての応援企業宣言170社に対してゼロ社等の、町長はどのように思っておられるのかを伺うという御質問の内容でございます。取組の進捗がゼロ%の3項目であります外国人の技能実習生制度の活用、あるいは総合診療医の配置及び子育ての応援企業宣言の推進につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により十分な取組ができなかった部分もありますが、例えば、外国人技能実習生につきましては、鳥取城北の日本語学校と検討協議を行うなど、来るべきアフターコロナの時代を見据えまして、下準備のほうを進めてきております。第2期の地方創生の総合戦略の終期までの残り1年半、目的の達成に向けまして、ねじを巻いて取組を加速してまいりたいというふうに思っております。

続きまして、グリーンドリーム計画についての町の環境問題を推進する組織として、環境基本計画推進連絡会議が7月に開催されましたが、参加した各課とどのような内容を協議、検討等されたのかという御質問でございます。7月の会議では、森林づくりをはじめ、ごみのリサイクル、あるいは脱炭素、子供たちへの環境教育など、昨年度の具

体的な取組内容等について確認したほか、取組の充実・強化に向けた具体的な対応策について検討を行い、この秋の脱炭素の普及啓発を実施することとしております。また昨年度、議会で御指摘のありました、ごみの削減に係る数値目標の追加設定について決定をしまして、今年の秋の開催の、これからでございますが、環境審議会のほうに諮ることとしております。

以上、大西保議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 角井副町長。

○副町長（角井 学君） 補足のほうをさせていただければと思います。

大西議員のほうから解体の進捗状況についてお尋ねございました。現在8割方終わっているというふうに事業者のほうから伺っております。以上でございます。

○議長（山本 芳昭君） 再質問がありますか。

7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 今、副町長のほうから8割、7割終了していると、確かにそうです。外から見ますと、建物は全部なくなりました。ただし、住宅関連につきましては、5棟ぐらいあるんですかね。それも解体、順次されている。それから、放置されていたトラックも一応撤去されております。

その辺の状況ですが、大きく私、今回3点について、養豚場のことについてお聞きしたいわけですが、まず、事業者の要望2項目というのは、もう一度確認したいんですが、どのような2項目でしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 角井副町長。

○副町長（角井 学君） 事業者に対して要望を行った2項目の内容でございますが、1点目につきましては、養豚場から排出される処理水等につきまして、河川に放流しない方策を検討していただきたいということ、また、放流しない場合には、処理水等を川に放流しないことについて地元と協約を締結していただきたい、これが1点目でございます。

2点目が、現在進行中の解体工事が終了するまでに、地元に対して現時点の事業計画を説明していただきたいという、この2項目でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 分かりました。実は、5月12日に全員協議会で説明があった。要するに5月2日に町長、副町長がファロス、大阪、行かれました。そこで大変、時間の関係でそこまで聞いてなかったんですが、一番注目しているのは、ここに書いてある概要の中で、新たに林地開発を行うことを考えておらずという1点と、現在の規模でという文章があるんですが、新たに林地開発を行うことは考えてないということ、現状13ヘクタールですが、農場の敷地が、その13ヘクタール内と考えていいんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） お見込みのとおりだというふうに思っています。また、ちょっと前段の話に戻りますが、解体の進捗状況ということで、議員おっしゃられる内容、私も現場のほうで確認を、詳細的なところをしているわけではありませんが、場内でいきますと解体はされて、ただ、残渣という表現が正しいかどうかはわかりませんが、ある程度山積みをされてるっていうところが現状ではないのかなというふうに思っていますし、町道脇の住宅辺りもまだ進行中っていう状況ではありましたが、そういったところは私自身も確認をさせていただいておりますので、日にち的なところも、期間もありますけれども、逐次そういうところは私自身も確認をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 町長、分かりました。現状というあれは、13ヘクタールを基準ということですね、その内ということ。例えば、そうするならば、1ヘクタール以上広げた場合は、当然開発許可等で地元同意が必要となるわけですが、地元同意を得ない場合はどうなるのでしょうか。町はどうされますか。

○議長（山本 芳昭君） 坂本農林課長。

○農林課長（坂本 文彦君） 1ヘクタール以上の開発ということになりますと、林地開発ということになりますので、県の許認可という形になるかと思えます。それに必要な書類として、地元同意というものがあるということでもありますので、その場合には県のほうも許認可という点で認可が難しいのではないかとこのふうには考えております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 林地開発が1ヘクタール以上であれば、地元同意が必要と。分かりました。そのとおりです。だから、そのようにしてください。要するに、同意をまず求めるのが一番だと思いますし、ただ、まだ計画書の中身は出てないということですんで、出たとき、要するに、埋立造成とか盛土、どうのこうのありますけども、地元同意が必ず必要ということが確認できましたんで、分かりました。

それと、そこに書いてある文章の中で、もう一つは、現在の規模でと書いてあるんですが、現在の規模とは面積なのか、建屋の大きさなのか、頭数なのか、現在の規模としか書いてないんで具体的に分からないんですよ。現在の規模とは、もう面積は分かりました。13ヘクタール以上になれば、当然広くなれば開発許可が必要だし、建屋もどのような建屋になるか分かりません。100メートルが10本か分からないですけど。頭数も、今までは8,500頭でしたけども、その辺のことについては、現状の規模でというのは、その規模の中身はどうなんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 私としては、現在の面積の規模というところが基軸になるというふうに把握しておりますし、認識をしております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 町長は面積ということですね。ということは、頭数ではない、建物の大きさでもないという解釈ですか。ということは、8,500頭についてまだ分かりませんから、どうなるのか、また話だけではちょっと何万頭というような話もありますけども、まだこれは正式に言えないんで、どうなるかは、これから計画出ない限りまだ言えませんけども、そういった情報交換の、特にお願いしたいと思うんですが。

ちょっと1点です、次に変わりますと、1回目の連絡会議が7月ですか、行われて、全協にも、議会の全員協議会にもその旨の説明、土地の関係とかありました。その後、同僚議員のほうから町有地の、その中に入ってるよということで、その契約書をあれば資料提供してくださいということで、ちょっと本会議前に資料が出てきまして、私この内容を見て大変驚きまして、ただ、同僚議員の質問内容に入ってますが、一応同僚議員に了解を得ましたんで、ちょっとあしたの質問になるんですが、その中でちょっと質問したいんですが、大変私はこれを見て驚いたわけです。契約が4月25日なんです、今年の。そして、来年3月31日、それはいいんですが、4月25日ということは、町長はたしか2月のときにファロスさん行かれ、それで5月に行かれたんで、4月25日にこの契約を結ぶということは、どちらからアプローチされたんですか。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） お尋ねの町有地の貸借契約の経過でございます。前の会社のときからの引継ぎ事項としまして、今年に入りまして、再三と申しますか、幾度と1月から連絡を取ってきた経過がございます。土地についていかがいたしましょうかと。それに当たっては、契約等も、概要等もお示しいただきたいということで申し上げておりましたが、先方の都合、また先方とのお話に至るまでの経過等もございまして、結果的には今年度に入って4月上旬に対面での協議ができたところでございます。昨年度中も切れ目ないように町有地の契約については結ぶ努力も重ねてまいりましたが、結果、4月24日ファロスファームから申請書が提出され、翌日の4月25日付で契約締結に至ったところでございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） すみません、ちょっと経過が分からなかったんですが、これは一番1代目、昭和48年のときに、そのような契約があったのか、ファロスさんの前の上原ファームのときから契約があったのか、その契約はいつからあったんですか。そして、4月25日ということは、その辺です。まず、上原ファームさんとの契約はあったんですか、なかったんですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 確認をさせてもらっておりまして、初回のほうが昭和49年の10月からということで最初の契約をさせてる実績があります。相手方につきましては、株式会社日清畜産センターということで、相手方はそういう、初めての契約をさせていただいております。以来、どういんでしょうか、会社の方が替わるってということもあり

ますが、随時その内容に付随しながら契約をさせていただいておりますので、いわゆるセントラルファームにつきましても、鳥取農場につきましても、そういった契約内容を更新といいたいでしょうか、そういった形で契約をさせていただいているところであります。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 昭和49年とか言われましたけども、そのときの契約書は全部残っているんですか、今までの、過去5代ぐらい替わって、今6代目だと思うんですが。いや、もう自動更新にされてるのって分かりませんが、上原ファームさんも約10年間おられた。10年間全部、納税されたんですか。納税というか、賃貸料払われたんですか。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） お尋ねの昭和49年当時から、以降の契約書の保存でございます。文書管理上、現在は処分をしている状況でございます。年度も貸付期間を相手方の交渉により定めます。今回の契約につきましては1年、今年度限りとしております。その期限到来から現在の保存年限は10年保存と区切って定めておりますので、その経過到来とともに処分するという状況で、当時の資料は現存してない状況でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 私は文書管理という中で、契約書というのは物すごい重要なことで、10年で廃棄していいもんなんですか。私は、確かに民間でいろいろやってきました。例えば、自動車でもそうですけども、自動車の製造廃止後10年とか、そこからなんですね。電気製品もそうです。でも、この公文書というんで、この契約書は全部10年たてば廃棄していいんでしょうか。ちょっとその辺は分かりません。

それで、文書でいくと、来年の3月31日でこれ自動更新じゃないですね、大体自動更新で双方が、片方が何かあればもう一遍協議して内容を変えとかいうような大体文章が入っている。この文章を見れば、そういう自動更新も書いてないし、これこそ単年度で、もうこれで終わってしまうような印象なんですけど、どうなんですか。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） 町の財産におきましては、いわゆる行政財産と普通財産と大きく2つございます。行政財産におきましては、未来にかけて、目的を持って、こういう活用をしようということで複数年契約、また自動更新とするケースもございます。一方で、今回契約しておりますのは普通財産に該当する町有地でございます。年度区切らせていただきながら、このたびは会社も変わるというタイミングで、1年ということとさせていただきます。今後も、先方との話し合いになってまいります。想定としては3年ぐらいということも考えておりました。しかしながら、期限につきましては自動更新という手続ではなく、お互いに確認をした上で更新、あるいは延長するという事で今後も進めていきたいと考えております。しかしながら、相手方の状況もございまして、その辺りはまだ確定ではございません。今のところの想定でございます。以

上です。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） そうしましたら、上原ファームさんが10年強、実際に農場運営されたんで、10年間町に対して年額7,000円入っておったんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） 町に財産使用料として入ってございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） この単価設定ですけども、標準の基準があると思うんですが、計算すれば1平米10円なんですね、年間、これが標準でしょうか。どこの、町全体の状況が分かりませんが、大変安いなというのと、例えば、2筋あるわけですね、進入路という形で。それで、書いてある内容、目的が、進入路以外にはできないわけですね。今後、今から解体して、造成やって、道路になったら、この場合進入路が変わることになれば、これはおかしくなりますね。進入路しか使えないことを文書で書いてあるんですが、その辺はどうなんですか。まず単価の件と進入路の件について伺います。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） まず単価の件でございます。平成9年に遡ります。当時、道路占用料徴収条例の一部改正というのをしております。そのことによりまして、料金の算定基準というものはなくなったところでございますが、行政財産等使用料条例を根拠として、現在の貸借の対象となる土地を1年につき1平米当たり10円プラス消費税、当時の価格で算定をして、現在に据え置いたまま更新といいますか、同額で7,066円で契約をしております。

それから、使用の目的内容でございます。進入路ということで現在契約を結んでございますが、今後の状況等も見ながら、変更契約もございまして。そういったところでは、状況を見ながら対応してまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 通常でいくと、固定資産もそうですけども、1月1日付どうのこうのので、この4か月間は怎么样了。それは免除なんですか。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） 年度で区切らせていただき、1月から3月につきましては、引継ぎと申しますか、引継ぎ事項の一つとして申合せにより前の会社が支払いをしております。4月以降、話合いの場、経過もございました。区切りとしては、先ほど申し上げましたように、4月25日付で行っております。日割計算しまして、それ以降の費用を新しい会社、ファロスファーム株式会社から頂戴しておる状況でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 土地、そして固定資産の関係もあるんですけども、3月

議会のときに、施設の改造をファロスさんがされたと。その費用につきましてはファロスさんが払うということで、自動測定器であるとか槽の工事もされました。当然、固定資産が変わっておるわけですが、それについては大体固定資産は年末に決めて、1月1日ですけども、昨年度の固定資産のあれで、1月1日時点で設備とか土地とかの町に対して納税があったんでしょいか。

○議長（山本 芳昭君） すみません、ちょっとお待ちください。

傍聴者の方に申し上げます。議場内では飲食を禁止をしておりますので、御遠慮していただきたいと思ひます。

高柴住民課長。

○住民課長（高柴 博昭君） まず土地、建物でございます。1月1日につきましては、前のセントラルファームが所有をされておりましたし、前の個人の井上様が所有されておりましたので、今年の固定資産税につきましては前の会社のほうが納税していただくということになっております。償却資産につきましては、ファロスファーム様のほうから申告のほうをされておりますし、新たに去年、皆さんに報告させていただきましたが、浄化槽の膜分離設備のほうの増加ってということで、償却資産の増がされております。ちょっと個人情報になり、個人っていうか細かい情報になりますので、金額のほうは差し控えますけども、その分の設備の増加があつて金額のほうは増加しております。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 要するに、そういったきちとした納税、町に対して納税していただいて、今はほとんど設備も建物もなくなるということで、償却なると思うんですが、今、一番最初に言ひました、これからのもし林地開発になつた場合に、1ヘクタール以上になれば同意が要ると。それ以前に、やっぱり農場との、運営やられる前に協定いうんですか、公害防止協定であろうが何であろうが、協定ということにつきましてはどのような認識を町は持つておられますか。地元、三者協定です。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 業者との情報共有っていいでしょうか、うちのほうも怠りなく進めているつもりでありますし、その協定の話につきましては、まだ確実的な話が調つてない状況であります。うちとしての項目的な課題というところの視点は当然持つておりますので、これからの中で業者の皆さんとの話合ひ、情報共有しながら、あるいはお願いもしながらっていうところの段階であります。とはいひながら、やっぱり協定書の在り方については、今後の一つの大きな課題という認識はもちろん持つております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 3年計画で最終稼働までというのが柱で出ております。やはり私は、一番はやっぱり地元の理解を得て、協定なりその辺を一番だと思ひわけで

す。どんどんどんどん工事なり計画が進んでいってしまっていて、もう後は何もできないようでは困るので、やはりなぜ地元同意がしていただけないかということについて、重点的に取り組んでいただきたいと思いますんですが、いかがでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 地元との最終的なところには、やっぱり水質っていうところが根幹にあるというふうに思っていますので。ですから、今後業者のほうで設備の浄水あたりのどのように考えていくかっていうところが基軸になるのかなというふうに思っておりますので、その辺はしっかりと捉えながら交渉的な意見交換を進めていきたいというふうに思っています。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） というように変化点があれば教えていただきたいし、先ほどの事例というんですか、土地の町有地の契約書、確かに報告しなくてもいい内容かも分からないですけども、第1回会合で土地の面積どうのこうのという、言っていた中なのに、後からその契約書が出てきたと。やはりその辺を残念だなと私は思っています。何も隠さなくていいわけで、今回、会議のときにも昨年5月、1年前からの状況も全部細かく書いていただきました。そこで、大したことないじゃないですけど、私、大変大したことだったと思うんですよ。この4月25日が契約書がなかったもので、私は、これはどうかなと、入れるべきじゃなかったかなと思っています。やっぱりそういったところが一つの信頼というんですか、情報交換の一番大事なことだと思うんですよ。なぜかという、本当に分かってるはずだとか、知ってるはずだ、じゃないんですよ。やはりその辺について情報を密にさせていただいて、後から出てきた情報、シークレットで隠すばかりじゃないんですけども、やはりその辺、信頼を得られるよう、一番は信頼なんです。

要するに、後から同僚議員も言われますけども、福島県での汚水発生問題が出ました。それも村長自らがすぐさま動いて、法的措置までとかいうようなテレビ報道も出ましたんで、そういったところも求めているわけで、やはり問題が起きればすぐ対応するという方向で行っていただきたいと思います。これからまだ10月末まで解体工事が完了はそうですけども、あと2か月しかありませんので、早期な計画書を出していただきたいと、地元が納得するようなことをいただきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その辺の進捗っていうところは、町としてもやっぱり報告を受けておりますので、しっかり確認をさせていただきながら、あるいは次のステップであります計画書っていうところが大きなテーマではありますけれども、そういったところは、どういんでしょうか、逐次、町としても業者に向けての確認作業、あるいは情報提供をお願いしてまいりたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 次に、第三者評価委員会、要するに総合戦略の件につきまして。私が、これ終わった後で議会全員協議会にも説明がございました。実は、そのときはいろんな議題があり過ぎて、もう時間がなかったということで、1点だけちょっと確認したいなと思ったんですけども、時間がなかったんで終わったんですけども。あえて私はそこで確認したいことがございまして、外国人技能実習生の件につきましては、私も5年前に、第1回目のときに行かせていただきましたんで、もう大変興味を持っておりますしなんですけど、この中の課題の中で一つ確認したいんですけども、外国人技能実習制度は職種に制限があり、建設業、木材加工業は1年のみの受入れとなっております。この文章はどう読んだらいいんでしょう。例えば、建設業、木材業は1年のみなのか、木材だけが1年なのかということです。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 失礼いたします。議員御指摘の評価シートの記載の方法でございます、表現でございます。議員御指摘のとおり、木材加工業に関しては1年でございますが、建設業につきましては3号まで移行すると最長5年という期間がございます。非常に分かりにくい表記だということで、ちょっとほかからも御指摘をいただきまして、評価委員会後に修正をしたところでございます。ありがとうございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 理解できました。ということですね。木材加工業は林野庁の管轄で、1年しか認めないということになって、何とか林野庁のほうに3年、5年できないかという話は聞いておりました。それはまだできてないということなんです。そこで、昨年モンゴルから来られ、そして今回、何周年で行かれて、実際にいろんな実習、それから日本語学校行かれたりされたわけですけども、この中の課題で、あるところのミニコミ紙ですけども、受入れ期間等の課題があるということですが、受入れ期間等の課題とは具体的にどのようなことでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 課題っていいでしょうか、様々な課題がありますけど、基本的には語学的なところがある程度、最低限必要だろうっていうふうなところが、日本に來られて働いて、あるいは暮らしを、生活をされる中でいくと、その辺が基軸になるのかなと。それができればいいということだろうというふうに思ってます。あわせて、会社側とすれば、先ほど1年の業種もありますけれども、やはり長く勤めていただきたいところが会社側の基本的な要望だろうというふうに思ってますし、それと、長く勤めていただければいただけるほど、会社の中での、どういんでしょうか、位置づけっていうか、仕事の分類でっていうか、そういったところにも広がりが出てくるんだろうというふうに期待をしておりますので、そういったところをにらみながら、総合的なところでこれから本当に入ってきていただく、町内で働いていただき、という外国人の労働

者のやっぱりウエートを様々な業種の中で高めていきたいというふうな狙いを持っております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 目標で、5年間で11名ですか、当初、コロナがないときは11名を目標にされておられたわけですけど、この11名の内訳で、どの業種に何名というような計画はあったのか、もうざっくり11名なのか、福祉関係とか、建設業とか、それ以外にというような、要するに計画の段階でどうだったんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 失礼いたします。11名の根拠でございます。明確に何が何名、何が何名というのは正直持っていないところがありました。ただ、うちで想定してましたのは、福祉分野、あとは木材加工分野、あとは建設業分野、これで5か年で11名ということ想定して計画のほうは立てたところでございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） いろいろ勉強もされた、今年ですね、研修制度で勉強も、研修ですか、町執行部でされたと思うんです。国のほうではちょっと大きく変わりそうな情報もありますけども、現時点はすぐ変わるわけじゃないと思うんですが、現在、日南町には実習生は何名おられるんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 詳細な把握っていうか、取りまとめをしてるわけではございませんけれども、町内のほうでも、どういんでしょうか、現在労働されてる、就労されてる方はおられるっていうふうには思っておりますが、個別なちょっと会社名は申し上げませんが、建設業であるとか、それこそ木材加工業のところにおられるっていうふうには思ってます。また、あわせて、介護分野でも1人採用してるっていう情報はもちろん承知しておるところではあります。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） そうですね、建設業の方、それから木材加工、それで福祉の関係1人おられます。よかったなと思っておりますけども、要するに何名、各事業所から要望されておるんでしょうか。要するに、要望なかったら全くないんで、強い要望と、来たらええわというのと、やっぱり取組が全然違うんですね。福祉のほうで5名は絶対必要だとか、当時は病院の方も行かれました。要するに、どうなのか、ニーズがあるかどうかです。ニーズもないのに行ってもいけないし、ただ単に行っただけで、してきたよ。5年前から私はいろいろこの件について言っておりました。コロナ禍だからじゃなくって、いろいろ調査できるわけですよ。以前、私、全協かどっかで言ったと思うんですけど、四国の南国市、物すごくすばらしい、モンゴルから、モンゴルで実際に介護の研修させてから、日本語を勉強させてから南国市へどんっと。それで、南国市は常駐の方もおるんですよ、モンゴル人が。そこへ一遍行ってきたらどうでしょうかということ

を提案したと思うんですが、聞くか聞かないか知りませんが、それはどうでしたか。聞かれましたか、見られましたか、南国市の福祉。そこはモンゴル人がやっとなるんですよ。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 前回、大西議員のほうから南国市の話はお聞きしておりまして、訪問したりだとか直接お話を伺ったりということはありませんけども、いろいろ調べさせていただきました。その中で、日南町のほうで今、令和6年度から検討しているのは、同じように日本に留学で入っていただいて、まず日本語を学んでいただいて、その後、福祉の専門学校のほうで学んで、介護福祉士の資格を取っていただいた後、日南町の福祉施設のほうで働いていただける仕組みが構築できないかというところで現在検討しておるところでございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 何か回りくどいんですね。即戦力というんですか、日本語学校はもうモンゴルであるわけですよ、N2とかね。もうそれが何か幾らでもおるんですよ。あと介護は、だから言ったでしょう、南国市はそのような研修をもうモンゴルの中でやっとなるんですよ。日本にすぐ行って、すぐ介護の仕事ができるように。実際に私たち5年前行ったときは、山梨の航空高校、ここは私立ですが、そこでモンゴル人が何十人おる。そして、帰るときまでに青森の実際に福祉施設行って、そこで就職するまで決めて、一旦帰って、再度日本に来て、そこで就職しとるわけですよ。そういう事例がある。今から鳥取城北へどうのこうのとか、ちょっと私自身は、コロナ、コロナの理由でずるずる、本当にニーズがあればどんどんやればいいわけですよ。ニーズがなければストップすべきだと思います、勇気を持って。そして、新たにすべきだと思うんですが、本当に外国人の研修生を、一つの事例ですけども、やっぱり計画段階からきっちりやらないと、ただ単に出しとけばええわ、11人出しとけばええわじゃ困ると。私は、この20、30項目ありますけども、ほったらかしにしとってできる内容と、やっぱり努力して努力してつくるものいろいろあると思うんですよ。評価委員会も年1回しかないわけですよ。その知恵を皆さんと集めて活動していかないと、ほかの計画も一緒なんですよ。後から僕、ドリーム計画言いますけども、この計画が一番大事なんで、その辺はどうなんでしょう。本当に、私ほかのこともう言いません、いっぱいありますけども。一つは、やっぱり私も興味を持っておるんで、これだけ本当にニーズがあるならば、もっともっと強力にやるべきじゃないでしょうか、プロジェクト組んでまで。その辺はどうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 一般論にもなりますけど、国内では技能実習生制度っていうところが基軸になりながら、外国人労働者の皆さんの就労っていうところがメインでありますし、国内のほうでもその取組の制度の内容の変更的なところも出てきている段階でございます。御指摘いただきました他の市の事例あたりも御指導いただきました。今回

も、当然、先ほど話もありましたように、町内でも労働者がおられるっていう状況下の中で、今後、どういんでしょうか、お互いが安定的なところが望める姿っていうところの中で、留学生というスタンスの中で来ていただくってことが望ましいではないのかなというふうに思っております。ちょうど南国市のほうが私の情報の中でちょっと入っておりませんので、技能実習なのか留学という形なのかっていうところはちょっと掌握し切れておりませんが、目指すのは留学生タイプっていうところをこれからは推進していきたいということの中で、また他の事例あたりも参考にさせていただきたいというふうに思っておりますけども、総合的な情報の収集をしながら、これから着実に進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 5年前に行ったときも、翌年すぐ地元というか町内の事業者の方、集まっていたいて、そして、たしか名古屋のほうから監理団体、受入れ機関を呼んで、どんどん進んでるなと思ったんですが、全然進んでなくていう感じでした。本当に、あくまで日南町における、これはまち・しごとという、しごとが入るとるわけです。本当に重要であればやっぱりプロジェクトぐらい組むぐらいの、片手間でやれる仕事じゃないと思います。当初は商工会の方にも監理団体になってほしいなということで、商工会はできない、しないということになったわけですけども、やはりいろんなところ、日南町って本当に人材が不足してる、こういう方が必要だというならば、やはりその辺をめり張りつけてやっていただきたい。我々も応援したいと思います。やはり本当に職場改善であるとか、福祉の方も大変努力されとるわけです。どちらもウィン・ウィンになるような形で推進していただきたいと思います。

三者の評価についてはいろいろありますけども、私はもうあくまで、くどいように言いますが、P D C Aの一番大事なのはPなんですね。プランが一番大事なんで、目標設定も、なぜそのような目標をするか、選定理由であるとかそれを十分にやらないと、結果的に後からこうなってしまったというて成果は求められませんので、やはりその辺やっていただきたいと思います。

ほかの項目ありましたけれども、ちょっと割愛します。

次に、環境のグリーンドリーム計画ですけども、私は大変興味を持っておりまして、今回グリーンドリーム計画の新しい計画が8年計画出たわけです。それで、今まで環境立町とかいうのは毎年審議会もやっておりましてけども、庁舎内の推進連絡会議なんてほとんどされてない。これ、15年でやっと2回目だと思うんです。たしか中村副町長時代に一度マイカーか何かで1回やられた以来で、私、大分これを、文章では物すごいこと書いてあるんですが、実際整ってないということだったんで、全然連携されてないということ。私もこれをつくるときにアドバイスして、やはりスケジュールは表で見えるようにしてくださいっていうことで、一応、当初この連絡会議は6月で行うことになっておったんですが、事情によって7月になった。それはいいんですけども、こ

の中でどのような内容を具体的にされて、どのようになっていくのか、その辺をお聞きしたいんで。物すごくここがちょっと重要なところですよ。文書的に運用状態ということ、ここが物すごい重要なポイントだと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 角井副町長。

○副町長（角井 学君） 答弁のほうをさせていただきたいと思います。

私も4月に着任いたしまして、この協議会の開催については担当課のほうから、私この会議の座長を務めるもので、非常にせつつかれておまして、ちょっと遅くなったんですが、7月、日程が取れましたので開催させていただいた次第であります。この中身についてですが、基本的にはもうグリーンドリーム計画に盛り込まれている取組全体の、昨年度の取組内容について一つ一つ担当課のほうに確認をいたしました。そして、今年度また新たにどういった取組をするのかというのを話し合うとともに、また数値的な部分も、昨年どういう状況であるのかというものを検討いたしましたので。具体的に何をということではありますが、計画に盛り込まれてる取組全般について議論をしております。ごみの減量化でありますとか、子供たちでも環境学習、あとは二酸化炭素排出の抑制の取組などについて総合的に検討しておりました。以上でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） この会議、物すごく重要な会議だと思うてます。ほとんどされてなかったんで。あと、町の町民の方が審議会と立町に出ておられますけども、ほとんどそこがもう一方通行になっておっただけで、全然連携取れてないような感じがします。そうしますと、環境審議会は8月に総会開かれたんですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 審議会については私のほうも参画したいというふうな思いがありまして、今その会の開催についての日程調整をしている段階でありまして、新しい役員さんの改選も含めてですが、そういったところは、ちょっと時期的にはずれておりますけど、開催に向けての準備を今している最中でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 言い訳ばかりになってしまうんでね、私は今回の計画で、この表を作ってくれと言ったんですよ、目に見える表を、いつ何をするかという。今まで文章だけだったんで、さっぱり分からなかったんですよ。これでいくと、環境審議会の総会は8月で、11月に中間評価するとなってるわけですよ。今、調整中ですよ、どうのこうの言ったら、もう9月、10月なって、じゃあ11月一緒にやるのということ。それで、連絡会議は次いつやるということになってるんですか、連絡会議は。

○議長（山本 芳昭君） 角井副町長。

○副町長（角井 学君） 連絡会議につきましては、審議会が開催された後、11月頃に開催するという予定にしております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） そのとおりですね。だから審議会が先やらないと、連絡会議開けないわけですよ。というように、やっぱりスケジュール感を持ってやっていただきたいと。要するに、これただ単に決まったことをやるだけじゃない。やはり中身が一番大事なんで、それも重要な会議のどこなんで、特にごみのリサイクル、今日の新聞にも出てました。鳥取県全体、各町が、日南町も二十何、何パーか、30パーとか出てました、新聞に今日は。というような各町も努力しとるわけですよ。特に角井副町長なら全県の情報はつかめられると思うんで、やはりいいところを日南町のこの環境計画の中に織り込んでもらえるように、いいところをまた修正するなりしていただきたい、大変それを期待しております、私は。そういった面で、書いてあるからこのときやれじゃないしに。

そして、もう一つは、P D C Aで、ここで点検評価ですが、P D C Aでの点検評価はP D C Aのどれに入るんですか。

○議長（山本 芳昭君） 角井副町長。

○副町長（角井 学君） 点検評価はCでございます。以上でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） そして、Aは何をするんですか、P D C Aの最後のAは。

○議長（山本 芳昭君） 角井副町長。

○副町長（角井 学君） AはACTでございます。ACTまたはACTIONでございますので、点検評価した結果、改善に取り組む、改善部分でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 勉強会じゃないんですけれども、対策なんですか。実際にアクションされてますか。見えますか。要するに、評価しました、点検しました、要するに監査と一緒になんです。点検で終わってしまうんです、評価で終わってしまう。一番大事なのは、その結果によってこうしていく、その対策案なんです。

例えば、1年前に車検問題起きましたね。もう1年たちました。そのときに対策打れましたね。いろんなシールを貼って、こうしてどうのこうの。その結果、対策に対しての評価もせないかんわけですよ、P D C Aで。無駄なことになってないか、本当に対策、その対策が起きたかどうかを見ないかんわけですよ。そういう、この文章の中にはP D C Aとちゃんと書いてあるわけで、全然回ってないんですよ、全部ロックかかってしもうとるんです、P Dで終わってしもうとるんです。それ正しく点検評価してないから、アクションを打てないんですよ。何を打って、分からないんですよ。ほとんど僕ら今ずっとこの第三者評価委員会、戦略もそうですけども、Cまではいいですけど、アクションが打たれてない。そして、来年度どうするんやということが一番大事なのに、見えないんですよ。それを期待しとるんですが、どうでしょうか、来年度。今年、要するに来年度に向けて、この第三者評価委員会のやつも1年半、要するに今年終われば、次、来年で終わりですけども、2期が。次にやるかどうか知りませんよ。でも、大事なんは

そこなんで、なってからするんじゃないしに、その辺を期待したいんですが。座長であり、中心人物で動かれる副町長、どうでしょうか。私が言うたらいけんわ、執行部の答弁をお願いします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 議員おっしゃるとおりで、P D C Aっていうところの取組の流れってというのは承知しておりますし、実態的なところがどうかって話はありませんけども。いずれにしても、計画をつくって、目標値をつくってということでもありますので、そういった年度の中の進捗あたりを確認しながら、さらに課題はどのようなのかとか、よかったねとか、そんなところはやっぱり会議の中で進化していく必要があるというふうには思っておりますので。なかなか全て目標値になるかどうかは別として、いずれにしても何らかのやっぱり行動っていうのはしないと達成ができないということだけは言えるというふうに思っておりますので、私自身もそういった指示を改めてさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） くどく言いましたけど、私は日南町が、環境立町と言うてる町は日南町だけだし、環境立県と言うてる県は鳥取県だけなんです。ですから、それにふさわしい取組と成果をしていただきたい。この名前を取り下げない限り、やはり日南町いったらいろんなことが取組やってるよなど、勉強しに行きたいなというような町になっていただきたいんですが、意気込みをちょっとその辺を、環境立町としての意気込みを再度町長。町長、過去の町長は全部1枚ぐらい本当に熱意を持って、町長は熱意がないと言いませんよ、過去そういうことを書かれておられましたんで、その辺を強い気持ちで。本当に環境、今、地球温暖化、今は地球沸騰化というような話も出てますんで、ただし、日南町ありがたいことに森林がたくさんあるんで、J-V E Rでいろんな活用させていただきますんで、そういった面で、特に日南町のことにつきまして強い気持ちをちょっと町長、本当にグリーンドリーム計画という形を、もう一度熱意を表明していただきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 改めてということではありますが、基本的には名称も変えながら、グリーンドリーム計画というところで推進し、計画ができた段階であります。もともとグリーンドリームっていう名称も変えるに当たっては、やはりそれなりの気持ちがあったということで御理解いただければなというふうに思ってます。おっしゃられるように、今、温暖化の話でありますとかS D G sっていうところで、私たちも明確にしながら推進をしてきてる町ではありますので、そういった背景も、あるいは将来的なまちづくりのためにも、この分野っていうのは重要な分野だろうというふうに思ってます。横のつながりっていうところが大切でありますので、単純に担当課だけっていうことではなくて、全町の中で住民の皆さんにも御理解いただきながら、あるいは企業の皆さんにも御

理解いただきながら推進していくべきだろうというふうに思っていますので、ぜひ皆さん方とともに、一緒に頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いします。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） いろいろと言いましたけども、日南町がよくなるように皆さんで協力していきたいと思えますし、頑張っていきたいと思います。私も環境については特に興味を持っていますので、よろしくお願いします。

私の質問は終わります。答弁は結構でございます。

○議長（山本 芳昭君） 以上で大西保議員の一般質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） ここで暫時休憩といたします。再開を10時50分からといたします。

午前10時35分休憩

午前10時50分再開

○議長（山本 芳昭君） 休憩前に引き続き一般質問を行います。

8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 私は、町の活性化は教育と公共交通にあると考えています。これまでもこの点について質問しました。そして、国際交流も起爆剤の一つであり、全国多くの自治体が姉妹都市提携や友好交流を推進しています。鳥取県は1997年、モンゴル中央県と、日南町は2018年、モンゴル・ゾーンモド市と友好交流に関する覚書に調印しました。今年7月、モンゴル中央県設立100周年記念式典が開催され、鳥取県から亀井副知事を団長とするチーム、モンゴル中央県親善協会の友好交流の翼一行、内田県議を団長とする県議団、EATOF、北東アジア地方政府観光フォーラム団、そして、中村町長を団長とする日南町の5つのグループが式典に参列しました。以前より、介護福祉施設等への人材受入れが検討されています。この点も踏まえて、今回の訪問の成果を伺います。

さらに、今後の展開について伺います。

また、人材育成プログラムについて、どのように検討されているのか伺います。

国際交流のもう一つの柱であるアメリカ・シアトルですが、小中高生の派遣事業もある程度実績ができ、さらなる展開、姉妹校提携も視野に入れた取組の必要性を感じます。教育長の見解を伺います。

2つ目の質問ですが、去る5月25日の全員協議会で旧花見山スキー場の購入検討の報告がありました。現在の検討状況についてお伺いします。

以上、よろしくお願いします。

○議長（山本 芳昭君） 執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 櫃田洋一議員の御質問にお答えしますが、国際交流についてのうち、4点目のシアトルの派遣事業につきましては、教育長のほうから答弁をいたします。

まず、国際交流についてということで、モンゴルの中央県100周年記念式典の招待を受け訪問された成果を伺うという御質問でございます。本年の7月24日から7月28日の5日間、モンゴルの中央県100周年の記念式典の招待を受けまして、私も含めて10人の訪問団でモンゴルの中央県、ゾーンモド市を訪問させていただきました。今回の訪問では、ゾーンモド市の議長や市の執行部との公式の会議の場で日南町内の事業所紹介を行うとともに、外国人材の育成雇用プロジェクトについての連携を確認をしたところでございます。職員の交流や親睦を図ったところでもあります。また、引き続きゾーンモド市との友好、連携を深め、労働力の確保に向けたスキーム構築など、具体的な取組を進めてまいりたいというふうに考えております。

次に、ゾーンモド市との交流の今後の展開という御質問でございます。訪問期間中にはモンゴルの日本語学級の生徒と交流を行いました。その中で、モンゴルでは日本のアニメが大変人気であり、日本語を覚えるのに漫画が非常に役に立つというお話を聞かせていただきました。昨年度はゾーンモド市に80個の利用しなくなったランドセルを送り大変喜んでいただきましたが、今年度は住民の皆さんに読まなくなった漫画本を御寄附いただき、日本語学校の教室のほうに送ることができないか、現在、検討を進めているところでございます。引き続き人的交流の継続と各種文化交流について、交流支援員を中心に計画、検討してまいりたいというふうに思っております。

次に、外国人材の育成プログラムについてどのように考えてるかという御質問の内容でございます。平成の31年度に町内での各種分野での人材確保が困難な状況を受け、町内事業者が外国人技能実習生を受け入れた際に生ずる各種経費を支援する、日南町外国人技能実習生受入支援事業補助金を創設しましたがけれども、新型コロナの感染症の影響によりまして技能実習生も入国ができなかったことなどによりまして、令和3年度をもって事業を終了しました。しかしながら、今後も製造業、福祉分野において人材確保はますます困難になっていくことは予想されますので、現在、新たな仕組みによる外国人材育成雇用プロジェクトを検討しております。この新たな仕組みは、企業の中核を担える人材確保を目指し、これまでの技能実習生制度を活用したのではなく、県内の日本語学校や介護の専門学校と連携して人材を育成した後、町内の事業者のほうで社員として雇用していく形態を検討しており、制度設計が固まりましたら議会のほうにも報告をさせていただきたいというふうに思っております。

続きまして、旧花見山スキー場についてということで、土地・建物購入への検討は、現在、どのような段階、検討状況かということの御質問でございます。まずもって目指す姿は、住民生活に安全であることが最も重要であるという認識の下、これまでにどのような活用が得策であるかを検討してまいりました。町が購入し活用するケース、町内

事業者が購入し活用するケースなど、現在も検討中でございます。結論が出せる状況に至っておりませんというのが現状であります。一方で、町や町内事業者以外の、いわゆる第三者が購入した場合の影響も想定しておく必要があります。引き続き検討を行い、お示しできる段階になりましたら報告をさせていただきたいというふうに思っております。まずは、公ってということではなくて、民間の皆さんの御購入っていうところを基軸に、現時点では思ってお進めておるところでございます。

以上、櫃田洋一議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、1点目の国際交流のうちの4番目のほうにつきましては、この後、教育長のほうから答弁いたします。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 櫃田洋一議員の御質問にお答えいたします。

1、国際交流について、④番、シアトル派遣事業も成果が出始めており、さらに発展させ姉妹校提携も考えるべきと思うが見解を伺うとの御質問についてですが、シアトル派遣の際に現地で交流を行っている中学校は、現在、ケログミドルスクールですが、派遣開始当初は別の学校でした。これは、受入れ体制によって学校が変更になったもので、今後もこうした変更もあり得ると考えております。また、夏に来町する中学生は、現地の複数の学校に在籍する生徒たちであり、単独校とのみの提携は実態になじまないと思われまます。ケログミドルスクールの姉妹校提携については、これまでも何度か提案させていただいておりますが、日本語クラスの生徒数の減少や、この交流事業を担当されている教員の異動等、学校管理上のリスクもあることから断られた経緯もあります。これまで担当してこられた現地の先生がこの夏に退職され、後任の先生が引き継がれるなど体制にも変化がありますので、現地コーディネーターを通じて相手校の意向等も改めて確認したいと思ってお進んでおるところでございます。

以上、櫃田洋一議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 再質問がありますか。

8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 町内事業者の紹介をされたということなんですけれども、どのようにされたのでしょうか、お聞きします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 全体的には、余裕のある時間帯でなかったというところは、背景があるのかなというふうには思っておりますが、先ほど申し上げましたような、新たな雇用人材育成の考え方につきまして、市の職員だとか、幹部の皆さんについて、こういう町としての考え方がありますということをお説明させていただきました。あわせて、それに該当するということで、町内からでも、事業体のほうから、商工会も含めてですが、そういった人材の方も派遣し、私たちがこういうことの、どういたしますか、事業主ですって紹介をさせていただきながら、今後、介護分野でありますとか、林業分野でありますとか、そういったところを直接皆さん方に行っていただくということが一

つの目的でありますし、紹介もさせていただきました。事業主のほうも、やはり、これから現場の生活であるとか、暮らしであるとか、そういったところを目の当たりにされることによって、これから入っていただく外国人の皆さんの総合的なケアができるのではないのかなというふうに期待をしているところではあります。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） それで十分だったのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 十分というふうには私自身も思っておりませんので、要はこれからというところが、新たな取組が重要だというふうな認識をしておりますので、帰った中で改めて私のほうから、先ほどの説明が、じゃあ十分どうだったのかということ、あるいは、理解をしていただいたかどうかということ、それに向けて今後の向こう側の反応っていいでしょうか、そういったところを確認するような、担当課のほうにはそういった指示をし、それを受けてさらに、どういいますか、新たな説明の機会だとか、そういった情報の共有はこれから進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 100周年記念の式典の真っ最中に、市長さん、議長さん、時間をつくっていただいて、会議を持っていただいたことは大変感謝します。今はZoomがあるので、事前に打合せもできるんですけども、やはり次のステップとして、町長と一緒にではなくて、担当職員というか先発隊で行って事前に打合せをすとか、事前に準備をする。それが研修生なのか留学生なのかっていうのもちょっとありますけども、やはり事前に行って、先方の担当者、あるいは、リクルートできるような体制をつくる先発隊の、私は必要性が要るのではないかと思います、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 議員おっしゃるとおりだというふうに思っておりますが、今回、100周年というところの招待をいただいたということの中で、その一つのきっかけっていいでしょうか、そこの記念の式典に私たちが訪問するので、新たな取組についての紹介をしたということでもあります。ちょっと下準備が遅かったということもあるのかもしれませんが、取りあえず、日本語をモンゴル語に換えたりとか、それから、事前の、多分、内容については、それこそ今のオンラインができますので、そういったところはして、下準備は進めてきたというふうに認識しておりますので、具体的にこれから説明する中でというところは、向こう側の詳細の内容についてのトークっていうのはまだできなかったというのは反省すべきかなというふうには思っておりますが、できる範囲の中で今回させていただいたということ御理解いただければというふうに思います。これからの、それこそ、これからのつながりというところがより重要になってくるというふうに認識しておりますので、遅滞なく進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） そうしますと、様々な成果があったということなんですけども、やはり一番の成果、最大の成果というのは、職員の交流や親睦を深めて、今後を確認し合ったということによろしいのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には、私はそのように思っています。重要なのはこれからってところがありますので、当面の、所期の目的っていうのは達成されたんだというふうに思っております。特に、私も初めてですが、日本語学校の皆さんとも交流したってということもありますので、そういった状況の現場で、語学力あたりも確認できましたし、気持ちも、後段のほうで話をさせてもらっておりますが、漫画本あたりを発送するというコミュニケーションはできたと思っておりますので、さらにこれを進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 7月に訪問されて、帰国後、反省会は行われましたでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 総合的なところはやっておりませんが、先ほど申し上げましたように、課題はありますので、推進するための課題はありますので、そういったところは私も指示させていただいたところでもあります。ただ、現地に行ってきた事業体の皆さんについては、改めてその辺は整理をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 反省することがなかったというのであれば、それはそれなんですけども、やはり帰国されてから、行かれた方も含めて、いろんな思いが多分それぞれあると思うんですよ、新たな取組を進めるに当たって。これはぜひ、やはり必要、あるいはやっていただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 再確認する必要性は当然あるというふうな認識を持っていますので、ですから、現地に行って分かったことって多分たくさんあるというふうに思っていますし、私も2回目ではありますけど、学校の子供さんたちと交流したのは初めてでありますし、現状ってところを再確認できたかなというふうには思っております。そういったところの利点を、これからの交流の促進に向けてつなげていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 今後の展開について、先ほども少しお話ありましたけども、今後の展開については、どのように進めていかれるのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には、その説明をさせていただいたプロジェクトの内容の、どういでしょうか、ゾーンモド市の皆さんから見るとどうなのっていうことだとか、課題はあるのかないのかっていうようなところの、やはり確認はさせていただく必要があるというふうに思ってます。それは、これからさらなる交流を深めていくためには、向こうの考え方っていうところがあるのかないのか、提案させてもらった内容についての課題っていうところがあるのかないのかっていうことも含めて、促進を、できましたら、改めて市長とその話を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 前回訪問されたときの共同実施プログラム2019というのがあるんですけども、その中にゾーンモド市に日南町を命名した通り、ストリートを建設するとあります。同意するとなっておりますが、これはその後どういうふうになったんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 向こうの要望事項としてのそういう、どういでしょうか、項目があったというのは私自身も承知しております。ただ、コロナの関係もあったので、なかなか交流、あるいは、等ができにくかったということが、言い訳になるのかもしれませんが、現時点では、現時点ではありますが、その内容についての事業進捗を図っておりません。ただ、交流的に、やはり行っていただいたので分かると思いますが、博物館あたりの展示品あたりが、ちょうど記念式典の中で展示はしていただけてませんが、そういった日南町の交流をしておりますっていうことの物品等は発送しておりますので、式典が終わったら、また博物館の模様替えをしながら、日南町との交流の展示をしていただくっていう確認はしておりますので、そういったところも深めながら、一歩ずつっていうことで検討していきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） ぜひゾーンモド市、日南町の何か通りができるか、あるいは、町長の手形が道路に埋め込まれるか、何かちょっと形に残るものを見たいと思います。

日南町のランドセル、80個送られた企画は、温かいメッセージも添えられて大成功であったと思います。そして、今度は漫画本ということなんですけども、日本語を話せる外国人にどうやって日本語を学んだのか、大体お聞きすると、独学で学んだとか、あるいは、コナンなどのアニメ、漫画で覚えたというのがやっぱり多いです。ですから、この企画ぜひ進めてやっていただきたいんですが、これについて少し説明をいただけますでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 失礼いたします。御質問の件でございます。

ランドセルにつきましては、昨年度、町内外の皆様から御協力をいただきまして、モ

ンゴルの小学校の新入学の時期がちょうど9月になっておりまして、本当に、もうこの間ですけども、8月31日にゾーンモド市長から、新入生に対して送らせていただきました80個のランドセルが贈られたというところで、ゾーンモド市のほうから報告を受けております。

また、漫画本につきましても、町長のほうから指示をいただいております、基本的にはランドセルと同じように、町内外の皆様にお声がけをさせていただきまして集めることができるといふふうに考えております。早急に取りかかりたいといふふうに考えております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 日本語学校生徒の日本語弁論大会を見られて、私の夢というのを一生懸命発表しておりました。日本に来ることを夢見て、希望していらっしゃるんですけども、生徒たちの受入れ、日南町への受入れ等々はお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） しっかりした発言の内容と、分かりやすい日本語だったというか、私自身も聞いている中で、目的っていうか、日本語の語学力も含めて、しっかりした人たちの学びをしているんだなというふうな感想を持ちました。ですから、こういった、鳥取県も含めて、鳥取県のモンゴル協会も含めてですが、そういった取組を、機会を増やすことによって、さらに子供さんたちが、鳥取県、あるいは、日南町に行ってみたいというところが、多分、高まるのではないのかなというふうに思っております。ランドセルにしても、今回の計画しております漫画本にしてもそうですけれども、そういった町としての日南町という町を認識していただきながら、1人でも2人でも、小さい交流でいきますと、研修に来ていただくという取組だとか、社会人になってインターンのなところもということが将来的にできるのか、できないのかっていうことも含めて、いずれにしても、彼女、彼らの日南町に対する意識っていうのを、まずは高めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 継続は力なりということわざがあります。来年度の訪問計画はあるのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 現時点というところでは、まだその内容を計画していることはありません、現時点ではです。ただ、今までが相互交流という形を取ってきておりますので、私たちが行ったり、市長とかのゾーンモドの皆さんが来ていただいたりとかっていうところが、今、現時点でやってる最中でありまして。そういった意味で申し上げますと、来ていただくということも、来年の場合にはあり得るのかなというところはあるというふうに思っておりますので、そういったところは、今後は相手のゾーンモド市の皆さんとの、どういまいしょうか、情報共有しながら、次年度への計画っていうのを検討していきたい

いというふうに思っております。ただ、いずれにしても、おっしゃられるように、途切れることなくということは当初の段階でありますので、特にそういうことは念頭に入れながら進めていきたいというふうに考えております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 相互交流、行き来というのが一般的ではあると思います。中央県親善協会も、来年はモンゴルのほうから鳥取県のほうへ来られるというふうに予定になってますけども。ただ、やはり来られたときには、数名、市長さんとかある程度の方が来られるので、なかなかリクルートにつながりにくいので、やはり出かけて行って、できるだけ多くの事業者の方に話を聞いていく、リクルートしていく必要性もあると思うんですけども、そのほうが、やはり、どういうんですかね、よく分かっていただけのし、意思疎通もしやすいのではないのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その視点はもちろん残しつつというか、先ほど小さい日本語学校の生徒さんの話もしましたが、具体的にプログラムあたりでいきますと、社会人ではあります。ですから、日本語がどれぐらい、語学を持っている方が社会人のレベルの中でおられるかっていうことも、やっぱり把握していく必要性があるかなというふうに思ってます。ですから、そういった方が来ていただくっていうことは、一つの在り方だろうというふうに思ってますし、いずれにしてもお互いが信頼関係をより強固にしていく、どういんでしょうか、留学生がというところを目指しておりますけども、要はお互いが労働力を確保していくっていうこと、向こう側からすれば、やはりなかなか市内の、あるいは、国内のほうで労働の環境が十分でないという現状がありますので、幾ばくかはそういった形を目指してくれる若い人たちを、目指すっていうか、結果を出すような形の取組につなげていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 日南町がモンゴル・ゾーンモド市と友好交流覚書に調印して交流しているというのは、ちょっと知名度がまだまだ低い。確かに交流ホールの一画に、ガラスケースの中に、ちょっと少しモンゴルのいろいろものは展示してありますけども、もうあと一歩だと思うんです。もう少し何か日南町が交流しているっていうのを目に見えるっていうか、感じられるちょっとものが欲しいんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御意見いただきありがとうございます。その方向の中で、前向きに検討していきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 私たち町民も、もっとモンゴルやシアトル、ベトナムについて、今後予想される地域について、やっぱり学ぶ必要があると思うんですね。一つ

提案しますけども、月に1回、例えばモンゴルを知る日とか、交流ホールで馬頭琴のBGMを流すとか、コンサートをするとか、何かそういったものが欲しいんですけども、いかが思われますでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御案内のように、今、職員として来ていただいております。ですから、それを一歩、やっぱり、全体の中でより高めていくっていう手法の中で、議員おっしゃられました知る日っていうかコンサートだとかも含めて、いろんな様々な取組ができるんじゃないかということでもありますので、それは決して悪いことではなくていいことだというふうに思っていますので、そういった取組も併せて検討してみたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 2年前に、町長、町民との関わりを継続することによって、多くの町民に関係が理解されると思うので地道に行っていくと町長述べられてるんですけども、それ、現在はどういう状況なんですか。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 町内での活動でございます。今、皆さんの目によく留まっているのは、ブログであったり、あと、ちゃんねる日南での番組であったりという活動を交流支援員のほうはしております。それ以外にも、各地域活動に参加をしたり、あとは、老人クラブさんの会合のほうに出向いてモンゴルのお話をさせていただいたり、あと、最近増えているのが、町外からぜひモンゴルの話をしてほしいということで依頼を受けて出かけていくこともあります。町内ではいろいろ、本当に積極的に動いてくれておりまして、小学校では本の読み聞かせをしたりだとか、あとは、日南小学校の給食の中で、モンゴルの食を学ぶというようなこと。あとは、向こうの日本語学校と日南小学校、中学校をつないで交流を図ったりと、地道な活動はしております。ただ、これからも引き続き、より皆様に触れるものもあっていいと思いますので、また検討していきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 農業分野の必要性も感じるんですけども、堆肥化施設の研修生を鳥取県受け入れて、農業大学校で学んで、その後、堆肥化施設を活用した野菜栽培農業を推進し、農業発展に貢献したということで、モンゴル国から全国史上3人目となるメダルを授与されたっていう方がやっぱりいらっしゃるんですね。そういう部分もありますし、やっぱり農業の部分も、やはり今、人手不足があります草刈り作業っていうのも、今後地域から考えてほしいという声もありますし、この農業分野もやはり一つ加える必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 答弁のほうでは、限定的な職種の話はさせていただきましたが、

議員おっしゃられるように、農業っていう分野っていうのも、私はありだというふうに思っていますので。ですから、1つずつ広がり拡大をしていくっていう考え方を持っておりまして、そのためにはやっぱり実際に来ていただいて働いて、その方がどう思っただけかというようなところを、そこを大切にしながら、横展開の拡大のほうに努めていきたいというふうに思っております。その中で、一つの分野として、農業というところはあるというふうに思っています。いずれにしても、人材不足っていうところがありますので、どういう形が一番好ましいかっていうことは、議論をしていきたいというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 人材育成プログラムですけども、検討してるということなんですけども、現在、どのような状況なんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 失礼します。現在、介護分野と、あとは、普通の事業所の就労分野と、2つに分けて今考えておるところでございます。今、スキームのほう、約、固まりつつあります。あとは、関係機関と調整を図りながら詳細を詰めていきたいという、今段階でございます。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） そうしますと、いつ頃からスタートするんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 詳細を固めまして、令和6年度からはスタートできるように準備をしておるところでございます。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 幾ら県内の日本語学校とはいえ、やはり条件のいいところに就職というか、行かれる、事業者に行かれるっていうのもありますけども、日南町に来ていただくっていうのは、それは確実にあるんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 今回のプログラムの内容でございますが、基本的には、モンゴルから来られるにしても、生活費も含めてやはりお金が要りますので、そういったところが一つの大きな課題かなというふうに思っております。ですから、今回のプログラムにつきましては、そういった生活も含めた形の支援ができる体制っていうことで事前にあらかじめ向こうから来られる段階からこちらの会社との契約をとるか、内諾的などころになるのかもしれませんが、そこを決めながら支援もしていくっていうことスキームしております。ですから、基本的には、計画どおりいったら日南町のほうで就労っていうことができる仕組みだというふうに思っていますので、ですから、そこをしっかりと固めていきたいというふうに思っていますし、町内の事業体にもそこはしっかり理解していただきながら、支援体制ができるかっていうことが重要なことかなというふうに

思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 分かりました。

そしたら、次、シアトルなんですけども、確かにいろいろな諸課題、問題があって難しいっていうのを先ほどお聞きして、これ以上なかなかお聞きしにくい状況ではあるんですが、ただ、やはり英語を学んでいる生徒、子供たちっていうのは、やはりアメリカ、シアトルに行きたいし、逆に、シアトルで日本語を学んでいる児童生徒、子供たちっていうのは、やっぱり日本に来たいという思いはあると思うんです。この素朴な思いや、あとは担当者の熱意、担当者やコーディネーターやの熱意に限るとなると思うんですけども、再度お聞きします。この辺りは、今後、可能なんでしょうか。もう、やはり徐々にはされていると思いますけども、現状維持のままなのか、どうなんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 我々も向こうと交流をしたいということは考えていますし、向こうもうちに来たいと、日南町にも来たいという思いも今年感じたところです。特に、今、先ほど言われたように、子供たちは英語を向こうで勉強をしてといたしますか、体験をして、英語が、本当に自分の英語が通じるのかなという思いと、自分の英語が通じたぞという満足感みたいなもの、やったぞというところというのは、非常に私は今年、特に感じました。そういったところは大切にしたいというふうな思いで、先ほど議員おっしゃったように、日南町の子供たちは英語、シアトルの子供たちは日本語を、何とかどうなのかなっていうところっていうのは、両方とも持っているというふうにも思います。ですから、これからは、学校同士が駄目なら、今問合せをしておる最中ですのでどうなるかっていうところっていうのは分かりませんが、もしそういう部分でなかなか難しいということだったら、今、7月に向こうから、シアトルからやって来ますし、うちは3月に行くわけで、その前後にやっぱり、今は、先ほどからあっているようにZoomとか、そういうオンラインでもできるという、交流ができるということっていうのは、やっぱり考えていかなきゃいけない部分かなというふうにも思っています。今年も、7月に来る前にちょっと担当者に話をし、何とか子供たち同士で、日本に来て、日南町に来て何がしたいっていうふうなこの掛け合いみたいなものができて、自分たちで計画ができたなら最高だねっていう話はしたんですけど、なかなか時間的な余裕もなくってできなかったんですけど、そういうふうな、子供同士がうまく交流して、自分たちで計画が立てられて実行していけるような仕組みみたいなものはできるんじゃないかなというふうな考えておるところです。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 青戸教育長、いい話をお聞きしました。これ、ぜひやってほしいし、やはり少しずつでも進化してるんですね。ぜひお願いします。ぜひ進めてください。

では、最後、旧花見山スキー場なんですけど、現在、検討中ということなので、もうそれ以上はなかなか難しいんですが、例えば購入も検討されるわけですから、日南町が購入する、町内事業者が購入する、第三者が購入する、あと、購入しないという4つの選択肢があるわけなんですけども、そうすると、どこが購入するに当たっても、撤去費用というのは多分積算されると思うんですよ。リフトが3本ありますし、建物も3戸ですか、あると思うんですが、この撤去費用の積算っていうのはされてるんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） どういうパターンの結果になるかは別として、議員おっしゃられるように、あくまでも概算でありますけども、課題の一つであるというふうに認識しておりますので、そういった意味での課題、費用的なところは、概算の見積りはさせてもらっているところでありますので、かなりの高額っていうところの数字という形になっておりますので、そこが大きなネックかなというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 牧野組合とは話をされてますでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 継続という形の中では、意見交換といいたいまいしょうか、そういったところはさせてもらっておりますが、まずは組合のほうが、牧野組合のほうの中の整理をしていただきながら、今後の中でどういう形が展開になるかっていうことは、ちょっと現時点では申し上げできませんけれども、そういった状態だということだけは私も承知しておりますので、合わせた形がということが展開になる可能性もあるかもしれませんが、取りあえずその花見山のところの土地の内容について、前向きに検討していただく企業の皆さんあたりに、今ちょっと、アポ的なところをさせてもらっているという段階であります。昨今の民間企業の中で、やはり自社でそういった森林を持つっていう考え方っていうのもありますので、多くはないかもしれませんが、関係の企業の皆さんはそういう考え方もお持ちですので、そういったところに、打診をしながらっていうところで、今進めている最中でありまして、もう少しお時間をいただければというふうに思っております。その結果で、また新たな方向性を決めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 購入を検討するときに、金額が一番大きなところにはなると思うんですが、例えば用途、使い道、三本松もそうですけども、じゃあ、用途ありきなのか、用途がありきのほうがいいと思うんですけども、用途も検討されていますでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 用途というところはもちろん、当然必要なことだろうというふうに思っておりますが、その中で地形であるとか、あるいは課題っていうところもあり

ますので、いずれにしても、民間の皆さんっていう形を重点に今検討しておりますけども、いずれにしても、安心な企業の皆さんというところには話ができることを目指していきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） そうしますと、今後検討されて、方向性が出る段階でまたいろいろ報告はあると思いますので、報告はしていただきたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本 芳昭君） 以上で櫃田洋一議員の一般質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） ここで暫時休憩といたします。再開を午後1時からといたします。

午前11時37分休憩

午後 1時00分再開

○議長（山本 芳昭君） 休憩前に引き続き一般質問を行います。

9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 例年以上の猛暑に見舞われた今年の夏も、9月に入り、朝晩は肌寒さを感じるほどとなりました。昼夜の寒暖差が10度を超える日々となっております。収穫の秋を迎え、この寒暖差が食味を上げ、日南米を求められる方々の期待に応えられるものと思っております。

それでは、9月定例会の一般質問をさせていただきます。町史跡下谷中鉄山跡の学術調査についてであります。学術調査の進捗と成果をお伺いいたします。

次に、国、県の文化財専門部署の現地調査が何回かあったと聞いておりますが、その反応についてお伺いいたします。

次に、下谷中鉄山跡の学術調査をするに当たり、文化財保護推進委員を募集されましたが、その採用要件と役割についてお伺いいたします。

次に、古文書解読講座も行われておられますが、その中で下谷中鉄山の資料の解読も行われているのかお伺いいたします。

最後に、以前価値を高めて、この下谷中たたらを観光資源として活用すると町長は述べられましたが、その道筋は描かれているのかをお伺いします。

次に、山里L o a dにちなん委託事業についてお伺いいたします。最初に、旧木下家の活用については、これまで様々な模索をされてこられました。その後の実態が見えていません。これまでどおり維持管理だけが続けていくお考えなのかお伺いいたします。

2番目に、レンタサイクルの整備が完了いたしました。レンタサイクルの活用実績と活用強化に向けた取組についてお伺いいたします。

3番目に、生山駅、上石見駅の100周年プロジェクトの内容と現在の進捗状況をお

伺いたします。

最後に、高齢者の免許更新についてであります。高齢者の方が、生活圈や回数を限定してでも車を運転されている実態がある中、米子のみ免許更新手続は、かなりの負担と危険性が伴っております。免許更新手続の一部でも郡内ではできないのか、そういった取組ができるのか、できないのか、伺いたします。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（山本 芳昭君） 執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 近藤仁志議員の御質問にお答えしますが、最初、1番目の町史跡の下谷中の鉄山跡の学術調査についての①から④の御質問につきましては、この後、教育長のほうから答弁をいたします。

最初の、町史跡の下谷中鉄山跡の学術調査についての、⑤番目の、価値を高めて観光資源として活用すると述べられたが、その道筋は描かれているかという御質問の内容でございます。下谷中の鉄山跡は、本町におきます有力な観光のコンテンツの一つとなり得る可能性を秘めているものと考えております。したがって、まずは、町内外の多くの皆さんに知ってもらって、見てもらって、そして、その価値を実感していただくための取組を推進し、将来的には本町の周遊型観光メニューの一つのコンテンツとして組み込むことができるといふふうに考えております。なお、昨年度であります、大山山麓・日野川流域観光推進協議会と連携しまして、日南たたら刀剣女子ツアーを開催しました。モニターツアーで、参加者が7名ではありました。本年は、山里L o a dにちなんの実施事業としまして、たたら遺構ウォーキングを2回開催することとしております。1回目は5月に開催し、参加者が12名です。今後は、11月を開催する予定としておるところでございます。

続いて、山里L o a dにちなんの委託事業についての中での旧木下家の活用につきましては、これまで様々な模索をされてこられたが、その後の実態が見えない。これまでどおりの維持管理だけを続けていく考えかという御質問でございます。町とすれば、この貴重な文化財的建築物を地域づくりの活用につなげ、後世に継承していきたいと考えております。しかしながら、御指摘のとおり、今までの活用に向けた様々な検討を行ってききましたが、改修の費用でありますとか運営主体の問題によりまして、現時点では具体的な取組には至っていないのが現状です。引き続き、地域での活用、あるいは、山里L o a dにちなんが主体での集客イベントの実施を並行しながら、抜本的な活用の方策を検討をしていきたい、その時期になったかなというふうに思っております。

次に、レンタサイクルの活用実績と活用の強化に向けた取組を伺うという御質問でございます。昨年9月末のレンタル開始以降、本年7月末の時点で、延べ51台、1か月平均でいきますと約5台という利用であります。また、活用強化に向けた取組につきましては、令和3年度に商工会等と連携して、3つのサイクリングのコースを作成して

いますし、大山時間のほうでも、日南町のサイクルコースを作成してもらっております。今後、情報発信の強化やサイクリングツアーの造成に取り組むとともに、レンタサイクルの乗り捨てシステムについても検討してみたいというふうに考えておるところでございます。

次に、生山駅、上石見駅100周年プロジェクトの内容と進捗状況を伺うという御質問でございます。生山の駅は本年11月28日、上石見の駅は来年の12月6日に開業の100周年を迎えます。このことから、今年5月、町、生山、上石見の自治会長、各まちづくり協議会、JR、山里Loadにちなんなどで構成します、JR生山駅・上石見駅開業100周年事業実行委員会を立ち上げました。現在、イベント式典の部会でありますとか、グッズの部会の2つの部会に分かれて準備を進めているところでございます。町内で計画されている様々なイベントと100周年をひもづけながら、町全体で盛り上げていく方針でございます。既に終了はしておりますが、商工会青年部のふれあい夜市での駅そばの販売でありますとか、生山のふるさと祭りでの昔の写真のスライドショー、あるいは、8月21日には、生山の駅ではあります、開業100日前イベントを実施しております。町内外から100名以上の皆様にお越しいただきました。また、記念のポロシャツ販売、記念のロゴマーク、ポストカード、サンバイザー作成などのグッズの開発、販売も行っておるところでございます。

今後でありますけれども、ふる里まつり、あるいは、食のバザールでの100周年のコラボのイベント、今、現時点でございますが、ミニサンライズ、あるいは、田邊太平まんじゅう復刻、やくものカラーチョコ、そういったところのイベントを検討しております。日野上のイチョウのイベントなども実施した後、本年の11月28日には、生山駅開業100周年の式典を開催する計画としておるところでございます。今年度から来年度にかけて、生山駅・上石見駅開業100周年を、関係機関、住民の皆さんとともに盛り上げていきたいというふうに考えております。

続きまして、高齢者の免許更新についてということで、免許更新手続の一部でも郡内でできないかという御質問の内容です。高齢者の運転免許証の更新手続につきましては、現行制度では、指定の自動車教習所や各地区の運転免許センターで行うこととなっており、鳥取県の西部では、いずれも米子市内まで行かなければならないという実態であります。

御質問にあります更新手続の一部郡内での実施についてということでありますが、鳥取県警のほうに確認してみました。結論的には、現状では困難との回答でありました。しかしながら、先月であります、日野町で行われました伸びのびトークにおきまして、同様の意見が参加住民の皆さんからもあり、知事からは、意見があったことを県警本部へ伝えるという発言を伺っております。このことは、本町だけではなくて、全県の課題として、今後、県の動きも注視しながら必要に応じて要望等をしていきたいというふうに考えております。

以上、近藤仁志議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、最初の1つ目の町史跡下谷中鉄山跡の学術調査につきましては、教育長のほうから答弁いたします。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 近藤仁志議員の御質問にお答えいたします。

1、町史跡下谷中鉄山跡の学術調査について、①番、学術調査の進捗と成果を伺うとの御質問ですが、今年度の発掘調査は、5月末から7月末の期間に実施し、終了しております。期間中、7か所の試掘調査を行い、主要施設である高殿、製鉄炉です、元小屋、現在でいえば事務所の跡の床面と、その規模を確認いたしました。高殿のたたら炉跡では、筋金と呼ばれる炉の基礎部分も確認しております。今年度の調査では、鉄を加工した鍛冶場の発見には至っていませんので、来年実施予定の調査においては、ぜひ鍛冶場の発見を目指したいと考えております。発掘作業に伴い、平地の草刈りや枝の片づけなども行っていますので、見学しやすい状況になっております。そこで、今後、一般向けの発掘調査説明会を実施する予定としております。できましたら、9月の平日及び祝日の2日程度を予定しておるところでございます。

次に、国、県の文化財専門部署の反応を伺うとの御質問についてですが、県文化財課は、良好な遺跡の残存状況や規模などから、当遺跡の価値を高く認めております。県指定とすることはもとより、それを飛び越えて国史跡への指定にも協力的です。国の文化庁からは、令和2年度の現地確認の際に、国指定に指定するに十分な遺跡であるとの意見を得ております。また、本年5月に文化庁職員、県文化財課職員と協議を行い、それでも国の史跡指定の価値は十分あるとの意見をいただいております。国指定に向けては、発掘調査報告書等、遺跡の詳細な価値づけ資料の準備が求められますので、今年度及び来年度以降の調査を基に作成を進めたいと思っております。なお、今年度の秋に、文化庁担当者を招いて現地確認を行う予定でございます。

次に、文化財保護推進委員の採用要件と役割を伺うとの御質問ですが、今年度、委員ではなく、会計年度任用職員として文化財保護推進員を6月1日から任用しております。採用要件としては、基本的なパソコンの操作技能を備えていること、普通免許証を所持していること、日南町の歴史や文化財に関心があることなどですが、業務内容は、発掘作業やオオサンショウウオの保護等、文化財保護に関する業務全般でございます。

次に、古文書解読講座において、下谷中鉄山の資料の解読も行われているか伺うとの御質問ですが、現在、古文書解読講座では、阿毘縁の木下家文書の整理を行っております。現在の進捗は、約70箱のうち25箱ぐらいを整理しております。その一部には、下谷中山鉄山に関する古文書なども発見されており、文書の解読も行っております。文書の内容としては、取引に関するものと考えられます。なお、下谷中山鉄山に関する古文書については、県立公文書館に寄託してある根雨近藤家文書が最も情報量が多く、今後は県立公文書館とも情報共有しながら、木下家文書の解読に努めたいと思っております。

以上、近藤仁志議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 再質問がありますか。

9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） まず最初に、今年度の発掘調査は終了したとの報告でありました。その中で、高殿、元小屋の規模は、当初想定していたものと大体合致するものであったのか、それとも違っていたのか。それと、ほかの遺跡が、このたたら跡の遺跡がいろいろあるわけですが、そことの差異、それから規模の大小、そういったものをどのように感じたのかお伺いしたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 想定したものが出てきたなというふうには聞いております。今、私も数回行ったんですけども、先ほど述べましたように、残土も、草刈りもきちんとしてありますし、枝も取ってありますので、本当に見やすいような状況にしております。ですから、そういう部分での発掘で、その後のことですね、来年度に向けては、先ほど言ったように、鍛冶場がまだ見つからないということもありますので、いろいろな文書といますか、特に画も描かれているものでもありますので、そういったものを、絵図なんかも基にしながら、どこにあったのかなというふうなことも見ながらやっぱりこれから発掘して行って、最終的には、どこまでするかという部分もあるんですけども、先ほど言った、国に指定していただくためには、歴史的にこういうふうな価値のあるもので、こういうふうな形が昔から言い伝えられていたとか、文書に残りますよというところまでしないとなかなか国の指定にはなりませんので、そういうところまで持っていきたいというところでもあります。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 先ほど、枝葉を整理してきれいにしてあるということでした。自分もかつて、四、五年前行ったときよりもはるかに雑木は切っておられますし、下の草も刈ってあって、大変見やすくなっております。だけど、残念ながら、まだ自分が今年行ったときは、枝葉が大変散乱していたし、発掘するに当たって、その近場に枝葉を集積されているという状態であって、全体をなかなか俯瞰することができないというような感じを受けたわけなんで、そこには長年の広葉樹の葉っぱが落ちてたり、草が枯れたりした腐葉土が堆積していて、かつての生活されていた泥の状態の上に腐葉土が重なっていて、その、なかなか次の鍛冶場の発掘に当たっても、そういった枝葉とか腐葉土の排除というのはできるのか、できないのか。

それと、もう1点、それこそ四、五年前、自分が最初行ったときは、草は茂っていたけど、大変暗い状態であって、石垣が大変きれいに見えていたんですよ。今、近年きれいにしたことによって、石垣に大変コケがたくさん付着して繁茂しているんじゃないかと思うわけなんです。そういった意味では、昔の、往年の生活状況を把握するのに、そのコケなどを取ったり腐葉土を取って、来年の発掘調査に寄与するということは考え

ておられないのか。また、できるのか、できないのかについてもお伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 腐葉土等については、やっぱり取らないと発掘現場は難しいので、取るような形にはなると思いますが、まずは目星をつけて、先ほど言った鍛冶場の跡を見つけるというふうなことが、まず最初に来るのではないかなというふうには思っています。

腐葉土を取ると、本年度、この5月から7月にかけていろいろなものが出てきています。一般的にここで生活してきたなというふうなものっていうのが、先ほど言いました、元小屋のそこからは、例えばビール瓶が出てきたりとか、当時ですから、大分ビールなんというものもなかなか手に入るのには難しい部分ではなかったかなというふうなことも想像ができるんですけども、そういうビール瓶であるとか、あるいは食器類であるとか、そういうふうなものっていうのも出てきています。ですから、その頃の生活の様子等々も想像ができるのではないかなというふうなことを、これは個人的にはありませんけども、思っているところです。また、鉄の材料等もたくさん出てきてまして、そういったものもそこで作ったものかなというふうなことっていうのも想像できるようなもの等も出てきていますので、そういったところの、やはり最終的な、どういやあいいですかね、価値もそうですけれども、歴史的な証明といいますか、そういったものにもそういったものが使えるのではないかなというふうなことは思っておるところです。

先ほど言いましたように、鍛冶場については、今後、図面も見ながら、ここの辺ではないかなという専門的なところも含めて考えて発掘をしていくというふうなことになるのではないかなというふうには思っておるところです。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 質問の中で、もう一つの答えがちょっと伺えなかったわけですが、コケですね。石垣を、やっぱり往年の姿をなるべく皆さん方に見てもらうには、今もう、石垣なのか土塁なのか分からんような状態ほどコケが茂っていて、大変残念だなと自分は感じたもんで、そのコケを取ることが、取ってもいいのか悪いのか、その点についてはどのような認識でおられるのか、お伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） ちょっとその辺は、私も担当者に聞いてみないと分からない部分ですけども、個人的には取ってもいいんじゃないかなというふうなことを思いますが、確かに、私も数回あそこを通りながら通勤したこともあるんですが、ああいう石垣が見えたのは、本当、近年になってからだなというふうなことを思っていますので、あれを見ただけでも、ああ、立派なたたら場だったんだなということっていうのが想像できるというふうに思いますので、そういったところもやはり見ていただくような形には、今後はしていかなきゃいけないんじゃないかなというふうなことは思っております。コケを取っていいのか悪いのかっていう部分については、また、専門家に聞いてみたい

というふうには思います。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） やはり自分が、下谷中たたら石組みというのは、大変魅力的なものだと思います。日野郡にも、日野町に都合山がありますけど、都合山は結構土塁で築かれた遺跡でありますし、あれほど石垣が四方八方いろんなところに使われた遺跡というのは大変珍しいと思いますので、もしできたら、石垣が見えるようにコケを取っていただけたらと思います。

発掘調査説明会を9月の平日ぐらいに行いたいということでしたが、この発掘調査説明会の内容ですね、もう近々やられると思いますが、こういった形でこういった周知の仕方、宣伝の仕方、どの範囲に出されるのか、そういったのはもう検討されておられると思いますが、どういう形を今考えておられますか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 詳細にはちょっと私も把握していない部分があるんですけども、以前のような形で、町民、あるいは町外の方々に来ていただいて、その現場を見ていただきながら、そこで担当者が説明を行うというふうな形にはしたいというふうには思いますが、何分にも道路事情が悪うございますので、その点が一つは心配をしておるところです。どうしても、マイクロバスも入りませんので、そういう部分ではどっかから歩いていただかなきゃいけないという部分も出てきますし、小型の自動車でもピストン輸送するというふうなことにもなるのかなというふうなことも思いますが、たくさん来てもらうと、またそういう部分では困ったことだなというふうなことは思っておるところですけども、皆さんに周知をして、こういうところにこんな遺跡があるんよというふうなことは知っていただきたいなというふうなことを思います。

また、私の調べたところによると、国の指定史跡になっているたたら場は3つしかありません、史跡としては、3つ。1つは島根県の田儀の櫻井家のたたら。それから、あとは山口県の萩の近くに2か所あります。それ以外のものってというのは、たたら史跡としてはありません。先ほど言われたように、本当に草も刈って枝葉も取っておくと、やはり見応えがあるなど、あるいは、先ほど言ったように、石垣なんかもすごいもんだなというふうには思います。その辺はやっぱり国も認めてくれている部分ではないかなというふうなことを思いますので、早く学術的に証明をして、国の史跡にというふうなことってというのは思っておるところでございます。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） やはり地域を巻き込んで、やはり地域の宝としてやっていく上には、今後もこういった現地説明会であったり、その過程過程、ものが出る出ないでなしに、そういった機会を数多く設けてほしい。そうすることで、やっぱり地域の方の理解も得られて協力も得られるんじゃないかと思っておりますので、よろしく願います。

それと、2番目に書いておりますけど、大変、担当部署、国や県の担当部署のほうから高評価をいただいておりますということですので。かつて、町指定をしてから、県指定に3年、国指定に3年かかるということが言われましたが、これは国の史跡指定に向けての道筋として早まる要素があるのか。そのためにはどういう形が地元として必要なのか。先ほど発掘報告書が必要だということはありませんでしたが、それ以外で必要と思われること、要するに地元のほうで準備しておくべきもの、そういったものをやはり前もって勉強しとく必要があるのではないかと思います、その点はどうぞ。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） いろいろと地元の方々には、やはり手伝っていただかなきゃいけないことっていうのはあるというふうには思います。まずは、それこそ一番は草刈りをしていただいて、いつでも見れるような形っていうのが一番大事なことかなというふうなことは思いますが、国に向けては、今のところ、早ければ7年、令和7年には国の指定を受けたいなというふうな思いであります。来年度、先ほど言いましたように発掘調査を行いまして、報告書を作成し、そして、国に上げていく、学術的なものを国のほうに上げていく。それが一番根本になりますので、それがなくなかなか国もうんって言うてくれないので、そういうところをきちんとした形で上げたい。それには、県の協力も、先ほど言いましたように、古文書等は県の公文書館に近藤家の文書が一番ありますので、下谷中の。そういったものもやっぱり活用しながら学術的に解いていかなきゃいけないという部分がありますので、その辺がこれからは重要になってくるかなというふうなことは思っております。地元の方々には、一つはそういった作業的なこともですし、先ほど近藤議員おっしゃいましたように、地元の方々にはやっぱり理解をしていただくためには、そういう説明会であるとか、いろいろなイベントみたいなものであるとか、そういったものにも御協力をいただければありがたいなというふうなことは思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 地元の協力ということで、かつても教育長とも話合いの中で言いました。地元のほうは、そういった大変関心もありますし、そういった協力ができると思うわけなんです、なかなか教育委員会は学術調査をするという部署であり、また、そういう計画でありまして、なかなか地元のほうに情報が流れてこない。山上のまちづくりの会に向けての「大草山だより」で、その文章としては出ますけど、やはり口頭で面と向かって今の進捗状況とか、そういったことがなかなか話されないということで、地元のほうとしてもどういう取組をしてよいのか分からないということなんです。でも、そういったのが流れてきて、そうすることによって地元のほうでも、中山間のお金を使ってでも、地域強化加算金であったり、いろんな地域を守るための、それから、価値を高めるための補助金というのはいろんな形であるわけなんです、そういったものをして、笠木の中の組織だって協力したいという考えは持っているわけなんです、ただ、

そこに情報が流れてこないというのが、大変問題なんですよ。そういった意味で、本当は身近に情報を流してほしいわけなんですけど、どうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） おっしゃったように、地元の方を大事にしなきゃいけない部分っていうのは痛切に感じておるところでして、担当者にもそのように伝えて、頻繁に情報をお流ししたいというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） それと、古文書の解読で、今、木下家のほうの古文書を解読していて、その中に鉄山の、たたらに対しての資料もあったということですが、先ほど教育長のほうがおっしゃられましたけど、近藤家のほうに下谷中たたらに関する資料がたくさんあるということ。自分もいろいろ伺っておりますが、この解読するにも、やはりたくさんの労力が必要だと思うわけなんですけど、なるべくスピード感を持ってやってほしいわけなんです、そういったところに、鳥大連携の事業とか、またほかの大学とか、ほかに関心のある組織、団体とかに声をかけて、古文書の解読を進めるということではできないのかなと思うわけなんです、吉田村の田部家の土蔵が十何ば並んだ土蔵群があるわけなんですけど、そこは、毎年島根大学の学生が来て古文書の解析をやっているというような話を聞きました。だけえ、そういった意味で、なるべくスピード感を上げて下谷中の価値を上げていくのに、そういった形の連携というかな、協力を求めることはできないわけなんですか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） おっしゃったとおりのことっていうのは、我々も考えて、声かけをさせていただいた部分もあります。島根大学のほうにもお願いをするというふうなこと、どういうふうな形が一番いいのかなというふうなことがあったんですけども、今、現状からいえば、古文書解読講座の皆さん方に力を借りてやっているのが現状でございます。鳥大にも声をかけさせていただいた部分もあります。できないことではないというふうには思いますけれども、今、一生懸命やっただいている専門の先生にもお願いをしながら、そういった部分ではやっているというところがございます。

木下家の文書の中にも、先ほど下谷中の鉄山は、一番最初はやっぱり木下家が操業されてますので、そういう部分での文書が残っていれば一番ありがたいなというふうなことも思っておるところです。ちょうどあそこの谷、今ある下谷中のたたら跡の裏側は、阿毘縁の大谷というところですので、そういったところからもやっぱり砂鉄等々も来たんじゃないかなというふうなことも考えられますし、あの奥も砂鉄場がたくさん取られて、山も大分変わっています。ですから、そういう部分では、木下家も大分、最初の頃はそこでやられたのではないかなというふうなことっていうのが言われていますので、そういった部分の文書が出てくればありがたいなというふうなことを思っておるところです。先ほど言ったように、近藤家の文書については、ほぼ解読された形で公文書館の

ほうにありますので、そういったものと比べながらといいますか、そういったふうなことで最終的には学術的に調査をまとめていきたいというところでございます。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 木下家のたたらが、下谷中たたらという形で冊子にも残っておりまして、大体3キロほど上流にあります。そこにも金池の跡であったり、また、何かお宮みたいな遺跡がありまして、高台の上になるちがあって、そこに石垣があって、階段がずっとついているような遺跡もあるわけなんで、やはり、そこに木下家のほうから古文書が出たら、大変、自分たちも夢が広がると思います。やはり、日南町の歴史をひもとく上で、このたたら文化の解明というのは重要な位置を占めていると考えております、自分も。古文書などの資料の解析をすることによって、やっぱりロマンと物語を呼び起こして、また、地元の誇りにもつながるのではないかと思います。だから、今現在、自分からしたら、やはり日野町であったり、奥出雲であったり、他地域に後れを取ると思うわけなんです。やはりこういったものを大事にして、スピード感を持ってすることによって、大いに大逆転をする要素はあると思うわけなんです、そういった取組を強化するのと早めることが必要だと思うわけなんです、その点、教育長どうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 議員おっしゃったように、スピード感を持ってやりたいという部分は私もありますが、なかなかそういう人がいないというのが一番私は困っておる部分ではあります。本年も、推進をしていただく者も、本当は4月からお願いをして採用といいますか、勤めていただくようなことっていうのを考えていたんですけども、特に専門的な知識を持っておられる方を最初の頃は考えてはおったんですけども、なかなかそういう方々にも、声はかけるんですけども、やはり難しいぞというふうなことで、どういやいいですかね、今の方をお願いをして、いろいろな形で手伝っていただいているというのが本音のところでありまして。

そういう部分では、やはり私もたたら歴史、日南町でのたたら歴史というものはすごいものだなというふうなことも思いますし、すごい価値のあるものだというふうにも私も思っております。ですから、そういう部分では、これからどういうふうな形でやっていくのかっていうところっていうのも、研究していくのっていうところも考えていかなきゃいけない部分かなというふうに思いますが、今のところはこの下谷中の鉄山跡ですね、何とか早く国の指定に持っていききたいというのが本筋のところと考えておるところです。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 人がいないということで、大変それは実感しますが、でもそれは本当に働きかけておられるのかいないのか。やはり組織として、そういった組織、山上なら山上、河上なら河上のほうの組織に対して、それなりの働きかけをされた

ら、自分に関心もありますし、協力もしてもらえないかというような期待感を持っておられるわけなんです、そういった組織に働きかけるという考えは、どのように考えておられますか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 組織に訴えてといいますか、お願いをしてという部分も大事だというふうには思いますが、やはり専門的なところっていうのが私は大事だなというふうに思っていますので、そういうふうな方をお願いするっていうふうな形で、あとは県や国、特に県ですよ、県の担当の方々にしょっちゅう来ていただいてアドバイスをいただきながら、そういうふうな形で調査研究をしていくっていうところっていうのを、これからも進めていきたいなというふうには思っています。その中に、やはり地元の方々にお願いをしたりとか、あるいはこういうふうなことっていうのが、もしお願いできればするような声かけはさせていただきたいなというふうなことは思っています。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） そういった意味で、3番目にお伺いしました文化財保護推進委員の採用について、下谷中だたらの発掘調査に絡めて、この推進委員の募集の予算が今年度予算に載っていましたので、専門家の方を求められたのかなという思いがありましたが、残念ながらそういった方でなかった、このたびこういう質問をさせていただきました。内容的には理解しましたので、これについては深く質問をいたしません、たたらというものも大変どうも人を引きつける力があって、町長のほうにもお伺いしますが、7月のモンゴルからの交流の帰りに飛行機の中で、埼玉県川越市の老夫婦の方と隣り合わせになって、5時間を過ごして成田まで帰ってきたわけなんです、その中で日南町はどんな町ですかと聞かれて、ああ、まあ自分の得意分野ですので、ホテルとたたらについて話をさせていただきました。その老夫婦の方は、時間もたくさん持て余しとるのでということで、何か一昨年だか、ホテルを見に四万十のほうまで行ったと。10匹ぐらいしかいなかったと、ちょっと残念だったというような話であられましたし、それから、たたら話にも大変興味を示されました。そんなに知識があるわけではないけど、やはり日本の生い立ちとして、鉄の文化というのは大変多くの方に興味を持ってもらえるものだ、自分も信じておりますので、この日南町にもそのたたらとホテルに関して興味を示されましたので、来年は時間もあるから、3泊4日で日南町に来るから、そのときはお願いしますという約束をして帰ったわけなんです。自分としても、やはり個人的に昼のたたらと夜のホテルというセットのツアーというもの、ツアーというかな、そういうものを個人的にやりたいと思っておりました。幸いなことにたたらに関しては、昼に大宮のたたら楽校に始まり、せっかく阿毘縁のまち協が準備されました大原安綱の千人塚ですか、とか、それから、深塔の入り口にありす鉄穴流しの昔の様子を写した写真であったり、そういったものと絡めてすれば、十分な昼の時間がた

らに関して費やすことができると思います。夜は夜でホテルを見てもらえばと思った、そういったツアーが十分できると思って、来年、個人的ですが、1回か2回はやってみたいなと思っております。そういったのも、やはり山里L o a dのほうに働きかけてもみたいと思っておりますが、そういった踏み出す力、一歩自分でやってみようとする力という評価ですね。そういった動きをもっと日南町民としても持ってほしいと思うわけなんです、町長はその点はどのようにお考えでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） いろいろ御質問の内容も、あるいは答弁のほうも聞かせていただく中で、おっしゃられるように、たたらっていうところは、鉄の文化も含めてですが、本町でもありますし、日野町でもあります、あるいは奥出雲のほうの動きっていうところもありますので、トータルっていうか、広域的な見解も入れると、それなりの将来的な、どういんでしょうか、価値の文化を醸成する可能性はあるなというふうには私自身は思ってますし、余談ではございますが、道路のほうもたたら街道というような名称もつけながら、そういった地域だよっていうところを発信をしてる最中でありまして。先ほどの一つの考え方として、観光の流れとして、ホテルとたたらってところの観光への考え方っていうのはもちろんすばらしい話かなというふうには思ってます。これからやはり日野町の皆さんが主体になるんでしょうけども、顕彰会というところもあつちますので、そういったところで、日野町の史跡もあります。そういったところの中で、整理をきちんとしながら、観光のベースにつなげていっていかってということは、これからの在り方としてぜひやっていただきたいと思っておりますし、山里L o a dのほうも、うちの町としても委託先としておりますので、そういったところとタッグを組んでいただきながら、実践に向けた挑戦をしていただくとありがたいなというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） そういった意味で、教育長にお伺いしますが、要するに、こういったツアーというかな、お客さんを迎えるに当たって、やはりそこにはガイドであるとか、学芸員とかいう、そういったある程度の知識を得た人がおることによって、来られた方、見学者に対する満足度というのが大幅に違うわけなんですよね。そういった意味において、この発掘調査をより度々広く情報を流して、関心を持って、そういった学びをして、また個人個人が新たな文献などから知識を得る。そういった方を求めて、たたらを見に来られた方を、特に下谷中のたたら遺跡に対してガイドができるということが、そういった取組が必要なんです。そういった取組を、やはり教育委員会が学術調査だけということになしに、そういった観点も踏まえた取組にしてほしいと強く思うわけなんです、その点どうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） そういうふうなことも考えてみたいというふうには思いますが、差し当たっては、先ほどガイド等々については、私は山里L o a dさんのほうにそうい

ったガイドをもししていただけるような形、今でも大分一般的なガイドはしてもらえ
る形ではあるというふうには思っています。それだけの知識は持っておられるような気も
してはるんですけども、そういうところでまずはしてもらおうのも一つかなというふうな
ことを思ってますし、近藤議員おっしゃったように、社会教育の中で、やっぱりそうい
うたたら講座みたいなものを年間に何回か行うというふうなことっていうのも、これか
ら考えていくのも一つの手かなというふうなことは思って、聞かせていただきました。
確かに人が来るにはやっぱりガイドさんが一番だというふうにも思いますので、ガイ
ド的のところというのはやはり地元の方々にも、それこそ御厄介にならなきゃいけない
部分っていうのも一つはあるかなというふうなことは思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 次の木下家の活用についてお伺いいたします。

木下家が、集客イベントを実施しながら抜本的な活用方法を検討していくということ
であります。これから先、この集客イベントをどういった形で考えておられるのか。
町の魅力につながるものになっているのか。今まで、はっきり言ってイベントを何回か
やられましたが、果たして本当に町の魅力発信につながっているのか。今までやったイ
ベントの先に、どういったものを目指すという目的に対する効果が果たしてあったのか
どうなのか、その点をお伺いしたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 以前からこの旧木下家の活用っていうところに対しては様々な
活動をしてきましたし、というのが現状であります。抜本的な方向性が出てるって
いうことではないというふうには認識しております。ただ、様々な今の山里L o a dあた
りでも、今年の場合ですが、それこそ下谷中の遺構イベントだとか、あるいは阿毘縁の
まちづくり協議会のほうでも落語のイベントあたりを企画されておまして、木下家を
場所とするというような活用をしていただいているのが現状であるというふうには思っ
てます。また、今、大学の学生の皆さんがちょこちょこ来ていただくっていうことがあ
りますので、そういった皆さんにも見ていただきながらっていうことで、御意見をいた
だくなり、あるいは泊まっていただくってところが徐々にでは高まってると
いうふうには思っておりますが、根本的な話ではないっていうふうには思っておりま
す。ですから、先ほど答弁のほうでも抜本的な活用方策っていうふうな表現をさせて
いただきましたので、木下家の文化的な価値っていうところも併せて整理を、再確認を
していきたいというふうには思っておりますが、そういったところを踏まえて、例え
ばの話ですが、民間の皆さんのお力を借りて、町の財政的なところもありますので、
そういったことも民間の活用をするっていうことの方角性の中で、サウンディング
型の市場調査あたりも検討してもいいのかなというふうには思っておりまして、
文化財的な保護と、あるいは活用ってところがこれからの旧木下家の方向性かな
というふうには思っておりますので、そういった取組も視野に入れながら前に進
めていきたいというふう

うに今、現時点では思っているところであります。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 令和3年に事業提案コンペをされました。69点の応募があって、それはどのように活用されるかというたら、今後の活用の参考にしたいという漠然とした返答でありました。ここに応募された方は、日南町の風土であったり、それから木下家の成り立ちなど、よく勉強された提案ではなかったかなということで、たたらをテーマにした活用というかな、イメージした活用の提案も多く見られたように思いました。その後、参考にされたというような跡が見えないわけなんですけど、これはどのようにされておられるのか。もうなかったことにされているのかどうなのか、その点をお伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 議員おっしゃられるような取組もさせていただきながら、様々な方のデザインっていうか、そういうところはたくさんありまして、ありがたい取組をしたかなというふうに思っていますが、ただそれを、じゃあ具体的にどのところも活用してもいいんですけども、やはり運営者がどうなのかとか、そういうところっていうところが、改修費用も含めてですが、なかなか確立されてないっていうところが現時点でありますので、具体的な活用、あるいは保護的なところも、イメージも含めてですが、そうするとやっぱり実践する皆さんの御提案っていうところが基軸になるのかなというふうに思っておりますので、前回の取組も参考にしながら、サウンディングの民間の皆さんのお力を借りるような形っていうのが、これからの新たな展開として、方向性として出していきたいなというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 民間とか、要するに活用する事業者がないというような答弁だったように感じました。ただ、自分からすれば、木下家を活用する上でコンセプトがないような気がするんですよね。要するに、活用方法する上でどういった形の活用をしようか、活用しようとする業者も募集とか情報発信されていないのではないかとこのように自分は感じております。自分なりの一案として、ここに常設展示場というものをやはり設ける必要、一過性のイベントイベントでなしに、絶えず何かが展示してあるということが必要なんだと自分は思うわけなんです。看板もないし、どういった建物かの説明もない、人も来ない、要求される活用方法も分からない。要するに、人が関心を持つ要素が一つもないんですよね。そこに、せっかく木下家がたたらでも財をなしたということ、たたらの影響で山を持つことになって、今度は山林を、山をたくさん持たれたという経緯もあるわけなんです、今、日南町では、先ほど言いましたけど、たたら楽校として大宮楽舎があるわけなんですけど、木下家のたたずまいの中で見るたたら文化というもの、やっぱり大宮校舎、新しい小学校の校舎に展示してあるものを見るとでは、全然価値が違うと思うわけなんですよね。その中において、木下家にどういった感

想を持たれるのか。そういったものを収集して、その中からまた一歩ずつ活用する方策というのを探ったらどうかと思うわけなんです、常設展示場をして、なるべく木下家を開けるといふ考えといふのはどうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 一つの提案ということで、お聞きさせていただきました。先ほどサウンディング型ってところの検討も進めたいってところは、先ほど申し上げましたように、やっぱり何にもかんにも民間だからしていいってということではなくて、やはりおっしゃられるように、旧木下家の文化財的な価値ってところだとか、成り立ちってところも加えてですけども、そういったところがこの旧木下家でありますので、そういったところをやっぱり後世に残しながら活用していくっていふ考え方になろうかなというふうに思っております。その中で、おっしゃられるような常設の展示場ってところの部分的なところでは加わる可能性っていふのはあるのかなというふうに思っていますが、いずれにしても町のほうとして、旧木下家をどう活用していくかっていふ、あるいは条件的なところ、そんなところも整理させていただきながら、民間の皆さんに情報発信しながら、その上でどういう活用していったが一番いいかというところを御提案いただく形っていふのを求めていくほうがいいのかというふうに今思っております。その条件には様々なことがあるというふうに思っておりますので、御意見をいただきながら、実際の活用に向けた取組の一步になるのかなというふうに思っておりますので、あるかないかは別として、そういった考え方の中で前向きに検討をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 近藤家と、それから木下家の、恐らく古文書を調べたら、あそこに展示するものは十分にそろうと思うわけなんです。それと、いつも門が閉じられた立派な屋敷といふのは大変寂しいものがあります。イベントのときだけ開けるから活用しているんだというのではないと思うわけなんです。今、維持管理費としての大体85万円が予算として上がるとるわけですが、草刈りをしながらそこでお客さんの接待もできるわけなんで、その85万という維持管理費の中でいったら、毎日開けなくても週2ぐらいの予算はつくかもしれないし、若干それにプラスすることによって、十分自分とすれば常設展示場として、費用対効果で、来られた方に感想をいただいて、それからどういった活用ができるのかという歩みを進める必要が自分はあると思うわけなんで、その点はどうしても一度まないたの上ののせてほしいわけなんです、町長、どうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御案内のように、山里Loadのほうに管理委託をしながら、建物管理っていふか、草刈りもそうですし、冬場の雪対策ってところも地元の皆さんにお世話になりながら、今の現状があるっていふ話であります。その経費いふのは、

先ほど申し上げたのは一部であるというふうに思っておりますけれども、しっかりとした建物管理っていうところはいずれにしても必要だろうというふうに思っています。ですから、あと活用っていうか、基本的な活用の方針っていうところをある程度は見極めながらっていう話ではないのかなというふうに思っております。一つは、議員おっしゃられるように、文化財的な、博物館的なイメージってところが色濃いお話かなというふうな御意見かなというふうなイメージをさせていただきましたが、そういった部分も含めて、やはり極端に言えば、ある方であったり、団体であったり、会社でももちろんいいんですけれども、常設的な管理運営っていうのができるかできないかっていうことも含めて、民間の声、知恵を拝借するという形で一步は出してみたいなというふうに思っています。その中でどういう意見が出たり、手が挙がるかどうかっていうのは分かりませんが、そういった御意見も視野に入れながら今後の在り方っていうのをやっぱり、こういう考え方もあるんだとか、やり方もあるんだっていうところがもし出てくるのであれば、そういった可能性をまずは探してみたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 立派な屋敷が門が閉ざされて、それが日南町の持ち物であるというのは大変寂しいものだと思います。やはりなるべく門の開いとる期間が長くなるような取組というのは、どうしても考えていく必要があると思うわけなんで、その点は今後の課題として取り組んでいただきたいと思います。

次に、レンタサイクルが、昨年でしたか整備が完了いたしまして、実質的に稼働を始めとるわけなんですけど、その実績が51台の貸出しがあったということですが、これは何組の方が51台、要するに1組が1台ずつでないと思うわけで、多分二、三人のグループであったり、いろんなグループで借りておられるんじゃないかと思うわけなんですけど、何組の借り上げがあったのか、お分かりですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） ちょっと再確認をしましたけれども、何組かっていうところまでは、現時点ですけれども、把握し切れてないってことがあります。また、どっかでその辺は情報の共有をさせていただきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） では、それはいいですけど、実績が51台ということで、これは想定していた実績に準ずるものなんか、それとも利用が少なかったのか多かったのか、その点をお伺いしますし、それと、利用者の行動形態ですね。行動形態、どういった、サイクルスタンドなどを設けて、それからコースも設定もされておりましたが、どういった行動形態でこのレンタサイクルを利用されたのか。その辺を調べておられるのか、感想をお伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 51台という数が想定よりどうだったかというお話でございます。こちらに関しては、やはり想定よりは少なかったというふうに思っております。その原因としましては、広報が不足していたこと、あとはやはり秋の紅葉シーズンになかなか周知ができなかったこと等原因かなというふうに考えております。

行動形態でございますけども、山里L o a dにちなんのほうで貸出しをしております。町内10か所、サイクルスタンドのほうを設けてあります。本当に遠い方は、かなり遠いところまで行かれたという話も聞いておりますし、近い方ですと、本当に中心地のあたりまで行って帰られたり、あとはイチョウを見て帰られたりというような方がおられたというところで報告を受けております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） その行動形態の内容を集約されておられるのかおられないのか。それからまた、利用された方の感想というもの、そういった感想を収集されておられるのか。やはり今後取り組んでいく上には、そういった取組がないと次につながらないというのが自分の体験から実感しております。その点はどうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 議員御指摘のとおり、どのような目的で使われたかとか、行動の形態でありますとか、やっぱりそれってすごく後々生きてくる情報になってくるといふふうに考えております。山里のほうである程度のほうは聞き取りをさせていただいておりますので、今詳細、どうだったということはちょっと申し上げられませんが、把握しているものに関してはお示しできるというふうに考えております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） またの機会で結構ですので、感想を聞かれて、それを検討の材料にされているという実態があったら、それはそれで次の計画に対する、取組に対する、何かな、資料となりますので、それはそれで結構ですので、報告を求めるものではありませんが、このレンタサイクルが日南町の生山駅周辺にあるということ。その利用の方法が、たしか周遊コースが3つぐらいあったと思いますが、レンタスタンドのほうに片側通行で行って、そこで捨てて帰る言やおかしいですけど、置いて帰ることができるか、そういった利用方法とか、何よりもレンタサイクルが日南町の山里L o a dにありますよということを、日南町に来られた方が知っておられたかいなかったか。その原因は何か。その辺はどうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 広報の仕方に関しては、山里L o a dにちなんのホームページのトップページでもレンタサイクルのことを出しております。ただ、それが十分であるかどうかというところは、確かに御指摘のとおりだというふうに思います。今年度のサイクル関係の計画としましては、プロモーションビデオの作成をしたりだとか、各チラシの作成をして、より来ていただく皆様に周知をしていきたいというふ

うに計画をしているところでございます。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 町の予算を使ってこういった事業をやる上においては、やはり効果というのは求められるものでありますので、そういった周知などは絶対必要だと思います。

それと、生山駅と上石見駅の100周年のプロジェクトですが、生山駅と上石見は1年違いであります。今年、生山駅の100周年、来年、上石見の100周年ですが、これは今年、生山、来年、上石見という形で、2年にかけてやられるわけですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御指摘の御質問ですけど、生山にしても上石見にしても、お互いが連携し合っというか、100周年ということを基軸にしながらやっていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） つまり2年にわたってこのイベントをやっていくという理解でよろしいですか。2年でやるという相づちをいただきましたので。

この100周年のイベントと絡めて、今現在やはり日南町に100年という年月が過ぎとるわけでありまして、伯備線があるが当たり前、駅があるのが当たりの世代ばかりになっているわけなんですよね。そういった意味において、このイベントと絡めて、2年にわたってされるわけなんです。伯備線が開通した先駆者の努力と苦難な足跡など、それからまた生山駅、上石見ができてどう町が変わったか。そういった資料を集めるというような努力はされておられるのかいないのか。また、それを展示するというような考え、要するに、町民とみんなが伯備線のありがたさ、生山駅のありがたさ、そういったものを再認識するイベントになっているのかいないのか、するのかもしれないのか、その点をお伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） すみません。私も先ほどの答弁の中で、実行委員会ところが主体的になって取組を推進していただいとるというお話をさせていただきました。現在でも、庁舎の中の入り口のほうで写真展的なところをさせていただいて、それだけでも少しは効果が、変化っというか、特に生山の駅前あたりの変化っというのはよく理解してもらったかなというふうに思っています。ですから、そういった写真的なところができるだけあれば、生山の駅の中もそうですし、そんな取組も今させていただいてるところであります。若干その中で、議員おっしゃられたように経過っというか、極端な言い方すれば、生山の駅ができた経過だとか、そういったところは多少過去の歴史的な、どういまいしょうか、そういうものがあるとよりいいよねっというふうな認識は持っておりますので、そういった経過の内容のものが分かるものがあれば、そういったところは、これからの紹介としてあってもよりいいのかなというふうには思ったりはします。伯備

線がある効果っていうところは、いろんな角度があるかなというふうに思っておりますが、ただ、やはり伯備線があることよってのプラスっていうところはたくさんあるっていうふうに思ってますので、そういった経過は改めて現場の皆さんと、そういった話を進めていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） やはり山里L o a dという一般社団ができたことよって、今まで企画課がやってきた事業を、この一般社団法人に全面委託されるということよ、何か今の答弁を聞いても、山里L o a dのほうに任せているのでというようなニュアンスの言葉を聞くわけなんですよ。何か、今は地域づくり推進課でありますよ、地域づくり推進課が主体となってやってるといふあれが見えないわけなんですよ。やはり何か連携が十分取れているのかいないのか、大変不安になるわけなんですよ、その点どうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 島山地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（島山 圭介君） 失礼します。先ほどのイベントの関係でありますとか、山里との連携でございます。今回のこの100周年の実行委員会は、山里が主体となってやっているわけではなくって、町ももちろん実行委員会入ってますし、山里も実行委員会入って進めているというよな進め方をしております。生山駅の歴史であったりだとかっていうところは、我々もぜひ住民の皆さんに知っていただきたいというふうに考えております。今考えておりますのは、生山駅開業を迎えたときの新聞を県立図書館から取り寄せたりできないかなと。また、南部町にあります祐生出合いの館にも、かなり生山駅の関係のものがあったりだとか、写真であったりだとか、その当時の本当にちょっとしたものと、かなり所蔵されておりますので、今そこの副館長さんともお話をして、それで取り寄せれるものは取り寄せる。向こうも協力をしていただけるといふお話をいただいておりますので、ぜひ皆さんに生山駅の歴史も見ていただけるよなイベントにしていきたいというふうに考えております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） せっかく生山、上石見と2年にわたってこのイベント、生山駅開業100周年、上石見併せ、それを祝うことのできる期間が長いわけですので、ぜひそういった長い期間に町民の方に、生山駅、また、あるいは伯備線が開通したといふ意義というものを再認識してほしいと思います。

それから、山里L o a dですが、設立に当たりまして、推進体制を一新されて、職員を増員されて業務に当たっておられます。日々忙しそうにはしておられますよ、費用対効果の面であったり、また、実績の評価基準は、何をもって評価する必要があるとお考えなのか、町長のほうにお伺いしたいと思いますが。やはり毎年毎年そういった評価をしながら、一般社団のほうに注文も出す必要が私はあるかと思っておりますので、その点をお伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 評価っていう、費用対効果っていうところもありますけれども、御案内のように、今の一般社団する前は、日南町としての観光協会という形の中で取組をしていかしていただきました。その時点から一般社団法人のほうに組み替えるっていう目的の中で、やはりしっかりとした観光っていうところを推進していくっていうことが主たる目的であります。ですから、毎年総会という形の中で、事業計画をつくったりというところがありますので、そういったところはしっかり行政側としても関与させてもらっておりますので、それが着実な推進と併せて、やはりさらなる拡大っていいでしょうか、そういったところにつなげていたり、今は御案内のように、他の空き家だとか移住だとか、そういったところも加わった業務を担っていただいているっていうふうに思っておりますので、いずれにしても行政側としっかり連携した形の中で、事業計画の作成、あるいは実施が大事だというふうに思っておりますので、さらなるそういったところは強化していきたいというふうに考えていますので、まだまだ足りない部分があるのかもしれませんが、それは一年一年向上に向けて、さらに進めていきたいというふうに思っています。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） いや、やはりそれはできたばかりですんで、足りない部分が大いにあると自分も思いますし、それは当然だと思いますが、この一般社団が設立されることによって、日南町が地域創生のチャレンジャーになり得ているのかどうか、大変ちょっとこの一般社団法人を設立する意義において、本当にそういったチャレンジャーになり得ているのかいないのかということをお伺いしたいと思います。要するに、観光にしろ移住定住にしろ、消費者のニーズを把握して一步踏み出すことから始めないと成功も失敗もしないわけで、また、これから取り組むための課題も見いだせないというわけなんで、果たして本当、一步踏み出すチャレンジャーとしてやっているのかなのか。その点をやはり、失敗することよりもやらないことを評価するというのが大事だと自分は思うわけなんで、そういう形を本当にできてるのかできていないのか、町長の感想はどうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） できてるかできてないかではなくって、しなければならぬというふうに思っていますので、そういった方向の考え方でこれからも進めていきたいというふうに思っています。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 山里L o a dが、結構日南町の観光であったり、移住定住であったり、要するに対外的な玄関口になる役割は大きいと思います。その点は十分チェックが必要だと思いますので。

最後になりますが、高齢者の免許更新についてです。答弁のほうでは、県の動きを注

視するというような答弁要旨となっておりますが、要するに日南町として現状をどのように捉えておられるのか、こういった実態があると感じておられるのかおられないのか、町長にお伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） そういう希望が、いわゆる郡内で一部でもって話ですけども、できれば近いところが望ましいという考え方の住民の皆さんはおられるっていうことは、多分そうだろうなというふうには思っていますが、現状、御存じのとおりだと思いますけど、70歳以上の高齢者あるいは75歳以上になられた高齢者の皆さんには、ある程度の免許資格という意味での試験的などが加わっているっていうふうに思っておりますので、そういった意味で、それを推進するには人だとか機材だとか、そういったところが必要になってくる現状でありますので、それを郡内出張というような形ができるかっていうと、県警のほうはまだできないというか、困難という回答が出てきております。ただ、様々な高齢者向けの施策の中で、できるかできんかっていうところは現状はそうですけど、それができる形っていうのも、例えば黒坂の警察署がありますので、そういったところでできないかっていうところは御検討いただくことは、そういうことを要望していくっていうことは在り方だと思っておりますので、先ほど申しましたように、隣の町でもそういう声があったという話でありますので、そういったところを声を上げていきたいというふうに思っています。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 困難であるということは十分承知しとるつもりであります。でも、実際にこういった形で困っているという方がおられるのも事実なんですよね。やはりどちらのスタンスに立って、困難だからどうこう、困っておられる方がどうこうでなしに、やはりスタンスは、足元におられる、大変困っておられる方のほうに向いてほしいと思うわけなんで、実際として免許の更新に75歳過ぎた方をお子さんが連れて免許の更新に出られるということ、平日でないとなかなかできませんので、そういった負担を家族に強いられるし、また、お年寄り、家族だけなら、そのお子さんが出るということもなかなかできないわけ。そういう実態があるということ。それと、公共交通の利用に対しても、日南町は十分分かりやすいのかもしれませんが、生活しておるので。ただ、米子駅から免許センターであったり自動車学校に向けては大変遠いわけなんですよね。どういう公共交通を使っていったらいいのか。75歳過ぎた方たちにとっては、大変物すごく負担になるわけなんです。そういった実態があるということを町長に知ってもらいたいと思います。それに対して、町長が何ができるかということを考えてほしいわけなんです。その点についてどうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 75歳以上になつたりすると、やっぱりそういうことも不安だっているところがあるっていうのはそのとおりかなというふうな認識は持っております。

ただ、先ほど回答しましたけれども、現状はこうですってという話です。ただ、大事なことは議員おっしゃられるように、これからの在り方ってという話だというふうに思っていますので、最終的には免許証がないと、更新ができないと困るって話だと思いますので、できる方法の中で、便宜性をどう捉えていくかって話だと思いますので、交通費の話も出てきておりますけれども、基本的には郡内の近場でそういう取組ができて本人が出かけていく、そういう形が一番望ましい姿ではないのかなというふうには思っておりますので、そういう形が取れるように要望等もしていきたいというふうに思っています。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） このたびの一般質問において、二、三の提案を含めて質問させていただきましたが、やはり日南町を思う気持ちは町長、執行部、議員、みんなと同じものであります。いろいろ知恵を出しながら、工夫出しながら頑張っていきたいと思えます。

以上をもって私の一般質問を終了させていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 以上で近藤仁志議員の一般質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） ここで暫時休憩といたします。再開を2時40分からといたします。

午後2時28分休憩

午後2時40分再開

○議長（山本 芳昭君） 休憩前に引き続き一般質問を行います。

2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 前回、6月例会に引き続き、本例会において一般質問をさせていただきます。

まず、1点目、道路維持管理について。前回、センターラインが引いてない、消えた地域がある、どうなってるのかなというところで質問をさせていただきましたが、国道をはじめ、県及び町道のセンターライン及び側線の整備状況について、まず伺います。

2点目で、昨シーズンの雪害で道路に覆いかぶさっている杉の撤去状況について伺います。

3点目、毎シーズン、道路に倒れ込み通行の妨げになる竹林対策について伺います。

2点目、新成人の希望受入れについて。私も初めてこの成人式に参加させていただきました、その中で、現在資格取得のために修業中の方がこちらに、町に帰りたいという希望を出された方がありました。その中で、その方たちを受け入れる政策、支援等について伺います。

3番目、前日も伺いましたが、町外者向けたったもカードについて、最新の加入状況について伺います。

4点目、日南病院の運営サービスについてということで、薬局に向けてのファクスサービス、処方箋に関することをございますが、していただけないかということで、まず1点伺います。

それと、従業員さんの駐車場、日野川沿いに大変低い位置にあります、水害対策について伺います。それにつけて、従業員さんの駐車場が足りているか、伺っていきたいと思います。

5点目、最近、商業者の清算等を結構聞いておりますが、固定資産税及び事業税が、普通に考えたら減るように認識できるわけをございますが、現状はどのようになっているかお尋ねいたします。

6点目、町道整備についてでございますが、話題になっております佐木谷より先の宝谷線でございますが、現在、橋梁の工事がほぼ完成に近づいてきております。その後のその路線についての整備計画等、お尋ねいたします。

7番目に、前回陳情事案について。森林譲与税の見直しの陳情を出されておりますが、現状は、状況はどうなっておるのかお尋ねいたします。

8番目に、燃料高騰対策について、昨年度は町内事業者に対して助成をされておりましたが、今年度はいかがされるものであるかお尋ねいたします。

9番目に、町長、政策に掲げられております農業所得向上に対する対策についてでございますが、米価は14.8%上がったって先ほどおっしゃってございましたが、支出のほうをいかに削っていくかというのも大事なことだと思っております、減税に関する施策をまず伺うものであります。

10番目に、町営バスの経費についてお尋ねいたします。燃料高騰により、かなり収益というか、経費がかさんでおるとは推測できますが、現状どのようなことになっておるかお尋ねいたします。

以上、10項目についてお尋ねいたします。よろしく申し上げます。

○議長（山本 芳昭君） 執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 高橋洋志議員の御質問にお答えしますけれども、4点目の日南病院の運営サービスにつきましては、病院事業の管理者のほうから答弁をいたします。

まず、1つ目の道路維持管理ということで、センターライン及び側線の整備状況について伺うという御質問でございますが、国道、県道に関しましては鳥取県で予算が計上されておまして、順次作業を始めているというふうに伺っております。また、町が管理します町道、農道につきましては、ライン引き、カーブミラー設置など地元要望を考慮し、交通安全施設整備事業として9月中の契約を予定しておまして、限られた予算内ではありますけれども、優先順位を決定し、施工していきたいというふうに考えております。

次に、雪害で道路に覆いかぶさっている杉の撤去状況ということでの御質問でござい

ますが、鳥取県では、大雪による倒木で集落の孤立、停電発生するのを防ぐために、市町村森林組合、電力会社などが参加する倒木被害防災・減災対策連絡会を設立して、被害につながるおそれのある木を伐採する事業を始めることになりました。およそ2,000万円の予算を計上されたところでございます。連絡会では、被害が発生した地域を中心に現地調査をし、事前伐採の対象となる木を選定し、事業者を決め、作業を始める方針が説明され、日南町におきましても8月に現地調査を行いまして、本9月の定例会のほうに関連予算として計上をさせていただいてるところでございます。

次に、通行の妨げになっております竹林対策という御質問の内容でございます。降雪時には、道路外にある竹林が道路のほうに倒れて通行に支障が生じる事案が多く発生しております。町道の維持工事の中で、道路上に出ている竹林を伐採したり、除雪のシーズン前には除雪車の運転手によります機械への支障となる竹等の伐採は行っているところでございます。しかし、全ての支障となる竹林の伐採は不可能であり、道路に倒れるおそれのある竹林や、道路上に張り出している枝や葉につきましても、所有者御自身で御確認いただき、伐採、剪定を行っていただきますようお願いをしたいというふうに思っております。

次に、新成人の希望受入れについてということで、修学中の方を受け入れる政策等について伺うという御質問でございますが、現在、学生等に実践的な就業体験を機会を与え、職業意識の向上や行政事務に対する理解を深め、本町で働くことへの魅力を伝えることを目的としておりますインターンシップ制度を設けております。また、インターンシップ型の地域おこし協力隊の制度によりまして、産業振興や起業など様々な分野で、町内を拠点に活動するきっかけづくりの場を設けておるところではあります。さらには、定住の奨励金や各種人材育成の奨学金制度を設け、日南町で就業するための財政的な支援や動機づけを行っております。最近では、情報発信やお互いのコミュニケーションを図る手段として、若者を中心にSNSが主流となっております。このSNSでのネットワークを通じて、町内への回帰につながる様々なメッセージを発信していきたいというふうに考えております。

次に、町外者向けたったもカードについてということで、最新の加入状況について伺うという御質問ですが、本年の7月末現在であります。町外向けたったもカード加入者数は256人です。本年の6月補正で御承認いただきました町外者向けのポイント還元キャンペーンの実施によりまして、ここ1か月余りで76名増加しました。11月から12月まで日野上のイチョウのイベントに合わせた秋のキャンペーンを実施しますので、引き続き町外者の加入促進に努めていきたいというふうに思っております。

次に、税の減収についてということで、事業閉鎖等が増えているが減収になった金額を伺うという御質問でございます。令和3年度と4年度を比較しまして、町の収入となる固定資産税と法人住民税の合計額は約238万円増加しており、減収には当たらないと考えております。なお、事業所を閉鎖した事業数ですが、令和3年度、令和4年度と

も各1社であります。

次に、町道整備についてということで、尾郷宝谷線の工事進捗状況及び今後の町道拡幅計画について伺うという御質問でございます。御質問の件は、町道生山印賀線の案件かと思っております。現在、令和4年度の繰越事業としまして、平成31年度から、令和の元年度からでございますが、ここで着手しました印賀側の改良を、令和5年度中の完成を目指し事業を推進しております。これによりまして生山印賀線は、平成30年度に完成した宝谷側と併せて予定をしておりました改良事業は完了とする予定でございます。今後の改良につきましては、町内の他の路線の進捗状況や国の予算配分を考慮し、検討してまいりたいというふうに思っております。

7つ目の国の陳情事案についてということで、さきに陳情された森林の譲与税の見直しの現在の状況という御質問でございます。令和5年の5月23日付で農林水産大臣宛てに、森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める要望書を提出したところでございます。議会からでもですが、令和5年の6月14日付で森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める意見書を提出していただきました。森林環境譲与税の現行の基準では、人口が多い都市部の配分額が多くなるため、森林面積が多い自治体により、多く配分されるよう見直しを求めたものでございます。日南町だけではなく、多くの自治体から見直しを求める声が上がっていることもあって、現在、林野庁が基準の見直しを検討していると伺っております。新聞報道等によりますと、林野庁の2024年度税制改正要望に森林面積の割合を上げ、人口の割合を下げる方向で、盛り込む方向で調整しているという情報もあります。引き続き経過を注視しつつ、地域の実情を説明してまいりたいというふうに思っております。

次に、燃料高騰対策についてということで、昨年度は営業車両に対し助成されたが、今年度についてはどうされるか伺うという御質問の内容です。現在、政府・与党におきまして、ガソリン価格の緩和策の期間延長など、燃料油価格の対策について検討が進められておりますので、今議会において事業者に対する町独自の燃料費高騰対策は予定しておりません。今後、国や県の動向を注視しながら、町としての対応が必要と判断でき次第、対応を検討してまいりたいというふうに思っております。

次に、9つ目の農業所得向上に対する対策についてということで、収入を増やす対策も必要だが、農業機械で使用する化石燃料に係る軽油税の減免を兼業農家も受けやすくするために動かれてはいかがかという御質問でございます。軽油税の減免につきましては、通常、軽油には1リットルにつきまして32.1円の軽油取引税が課税されておりますが、法令に規定されました特定の用途ということで、免税の用途ですが、これを使用する場合には軽油取引税が免除されることとされております。この制度を申請する場合、日南町の農家の皆さんは日野振興センター、または西部の県税事務所が窓口となっております。現在この免税軽油使用者登録件数ですが、法人が10件、個人が18件の計28件であり、十分な活用しているとは言い切れません。兼業農家では活用できないわけ

ではありませんが、申請に当たって年間の最低申請数量が18リットル以上であることや、免税軽油を使用する際は免税証や免税軽油の適切な管理はもちろん、定期的な使用数量の報告や諸手続などが求められることなど、多少の負担感が感じられると思っております。まずは既存の制度について十分な検討活用となるように、ホームページや広報紙などを活用して情報発信をしております。

次に、町営バス経費についてということで、燃料代高騰により前年度より200円の収入を得る経費が増額しているかという御質問でございます。今年に入り町営バスの燃料費は、大型バスの路線バス、デマンドバスともに増加しております。特に今年の6月以降は急激に高騰しており、7月期で比較しますと対前年度比リッター当たり3.8円増加しております。燃料費は今後も増加が見込まれます。町営バスの利用者1人1回当たりの乗車経費は令和4年度が4,799円であり、前年度と比べ404円増加しております。令和5年度につきましても、このまま燃料高騰が続けばさらに経費は増えるものと考えられます。利用料の200円につきましては、町の施策として住民の皆さんに御利用いただきやすい料金設定をしておりますので、燃料高騰に係る運賃の値上げにつきましては、今のところ考えておりません。

以上、高橋洋志議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、4点目の日南病院の運営サービスにつきましては、病院の事業管理者のほうから答弁をさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家 寿樹君） 高橋洋志議員の御質問にお答えいたします。

日南病院の運営サービスについて、まず、①会計に日南薬局に向けてのファクスサービスを提供いただけないかとの御質問についてですが、平成22年4月に日南薬局が開局いたしまして以来、今日に至るまで患者様の診察が終了し、会計前の時点で日南薬局で投薬を希望される患者様におかれましては、処方箋を日南薬局へファクスさせていただいております。

次に、従業員の駐車場の水害対策についての御質問ですが、現在日野川沿いに約50台分の従業員駐車場がございます。平成30年7月の大雨の際、増水した川の水により駐車場内に浸水したことが一度ございました。駐車場は日野川沿いにあり、増水した場合、水位が上昇し、山側から流れる田ノ原川の水が日野川へ流れずオーバーフローし、周囲より低くなっている駐車場へ流れ込むことが考えられております。その後、生山地区内の下流で河床掘削が行われまして、当時と比較すると川の断面積も広がりました。過去の経過を踏まえ、対策としては夜間の勤務者は全員病院の地下、ピロティー部分に車を駐車させており、また、日勤帯のみ川沿いに駐車しておりますので、状況を把握しながら大雨のときには監視を強化して、事前にそういった場合、車両を移動させるなど、災害を防止することが可能と考えております。

また、50台分は川沿いにありますが、それ以外にも今申し上げましたピロティー部

分等々、病院の敷地内にも数台自家用車を止めることができますので、今のところ充足しているというふうに思っております。

以上、高橋洋志議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 再質問がありますか。

2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 1点目の道路維持管理についてでございますが、2番目に丸をしております、雪害で道にかぶさってる杉の木が、私ども毎日通るとる大入に数本、それから、尾郷に向かう線で若干あります。これ、対策を取られる前に例えば災害が起きた場合どこの責任になるか、ちょっと私も素人なもんですから教えていただければと思いますが。

○議長（山本 芳昭君） 渡邊建設課長。

○建設課長（渡邊 輝紀君） 基本的には道路の管理者という形ではなくて、土地の所有者の方ってということになりますので、昨年も雪害で倒木が車を直撃したってということが県道でございました。そういったときも、やはり個人での車のほうは修繕というような形になっております。状況によっては対応していただける場合もあるというふうには聞いております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 道路維持管理についてですけども、国道、県道、町道もしかりですが、維持管理を受託されとるのは日南町になると思うんですけど、道路の側線から、車両ってというのは大体高さ制限3.8まで認められておりますが、その有効なところに対して、結構枝葉とか、今出とる状態が各地で見られますけど、そこら辺の対策というのは、具体的に予算とか取られて執行されていくものなんでしょうか。いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その案件につきましては、昨年度も若干ですけれども、全てというわけにはなりません、地元要望等も御意見をいただきながら伐採っていうか、そういったことを実績がありますので、基本的には先ほど申し上げましたように、土地の所有者っていうところではありますけれども、道路管理者としてはそれなりの、通行に妨げがない形を担保する必要性もありますので、どちらがするかっていう話はあるとは思いますが、先ほど申し上げましたように、雪害で結構この冬にたくさんありました。ですから、県もそういった、停電にもつながるっていう話にもつながりやすいところを重点的に、そういった伐採をこれからも進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） そのほかに、道路の横に電柱で、最近すごいインフラ整備をされて、高価なものがぶら下がってずっといってる、光ケーブル入っているわけでございますが、そこら辺もやっぱり財産守るという観点からいくと、道路の維持管理も

含めた樹木の撤去の必要性があると思います。連絡協議会は先ほどつくられてというふうには伺いましたが、あまりにも見て、あっ、これ大丈夫かというようなところ結構ございますので、早めに手を打っていただきたいと思いますが、いかがなものでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的にはその考え方だろうというふうに思っておりますが、一定の予算的なこともありますし、まずは先ほど申し上げましたように、電柱ってどうか、電線との、そこにあるケースを優先的に、今年の場合ですけれども、そういう考え方の中で実施をしていきたいというふうに思っております。特にこういった中山間地はそういった場所っていうところが多いというふうに思っておりますので、その辺は将来に向けた優先的な予算の確保だとか、そういったところにもつなげていければというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 続きまして、2番目に質問させていただいた件でございますが、最近、私も新人議員でございますので、いろんな行事に参加させていただいて、非常にまた日南町の新たなところを見させていただいて、感謝いたしております。その中で、成人式においてこういうパンフレットを配っていただいたんですけど、新成人の方の中で2名が、修学中であるけども日南町に帰って働きたいと。1人は、私が最初に会ったのは小学校3年のときから知っている子供が、日南町に帰って牛を飼いたいと。すごいこと始めるなどと思いながら聞いたんですけども、受入れ体制いうのを、いろんな施策を取られて、外から来られる方をやっぱり引き込むのも大事ですけども、私はまず、地元の出身の方をいかに引き止めるかというのがまず第一だと思うんで、この辺で1人は農業、牛を飼いたい、もう一方は、これ言っていると思うんですけど、医学を学んでおられて、日南病院に帰ってきて働きたいという方がいらっしゃいました。この辺を引きつける政策というのは、これいろいろあると思うんですけども、この情報が入ってから、その本人さんたちに接触といいますか、勧誘といいますか、そういうのはされておりますでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 現時点では、個別的な動きっていうところはしておりませんが、おっしゃられるように、情報は承知しておりますので、本人の御意向等もいただきながら、できる形っていうものは新たにつくるっていうか、考え方も入れながら、既存の事業的なところに適応するかどうかっていうところも含めてですが、そういった取組はこれからも重要だろうというふうに思っています。一般的にですけれども、やっぱりお子さんが大学のほうに勉強に行かれて、それで帰ってくる、あるいは一時的に社会人になられて、Uターンしていただくっていうことも大事なことだというふうに認識しておりますし、現状ではどちらかというと転入者の4割がUターンという状況が町内にあります。どちらかというとIターンのほうが多いってのが現状ではありますけれども、いずれ

にしても、そういった地域で育った皆さんが帰っていただくっていうことは大事な要素だというふうに思っておりますので、そういう考え方の中で若い人たちの転入につなげていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 特に、帰ってきていただくのにやっぱり投資というのにも必要になる案件もございますので、それこそ農林課さん中心になって、いかにその経営が成り立っていくかというところも構想を本人さんと打合せをしながら、ぜひとも帰ってきていただいて就農していただきたいと思いますが、いかがなものでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 坂本農林課長。

○農林課長（坂本 文彦君） 失礼します。議員の言われました件につきましては、たまたまではありますが、御家族の方も農業をされておまして、今、まだ学校に通っておられるということは伺っておりますけども、今後、日南町のほうで農業もしてみたいという思いもあるということでしたので、お話をしております。卒業されるときまでに、日南町に帰ってどのような、本当に牛を飼う農業をしたいのか、それとも御家族がやっておられる農業のほうを継いでいかれるのかということを含めまして、その考えが固まった時点で、必要な支援であったり、町のほうでできることは何かということは検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） ぜひともお願いいたします。

続きまして、町外者向けたったもカードについてということで、前回は質問させていただいたのですが、日南町自体、労働者不足があって、町外からの就労の人口がますます増えてきていくと思われる中で、この町外者たったもカードの利用というのは非常に面白い面があると思うんですが、これは多分町外の方ばかりで、役場関係で、前回は質問差し上げましたが、加入というのは増えましたでしょうか。いかがでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 大きな数字ではないが増えとるのは間違いないと思っております。

逐次、前回6月の報告、今回は7月末の数字は把握しておりますけど、若干ですが増えているのは間違いないですが、さらなる対象者の皆さんには声かけをしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 町外から就労に来ていただいている方の生産能力とか、消費額っていうのは非常に今から大きくなると思いますので、このカードを使って地元にお金回していただくという施策をぜひとも取っていただきたいと思います。

続きまして、病院の運営についてお尋ねいたしましたが、先ほどの回答の中で、駐車場は足りているという表現をされておりましたが、実際、新しい橋の旧道がございますよね。あそこに占有されとる車ありますし、病院に向けての上り坂のあそこって町

道なんですかね。道っていう感覚でいくと、あそこを違法に占有されてる駐車になると
思うんですが、いかがでしょうかね。

○議長（山本 芳昭君） 福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家 寿樹君） ちょうど日南病院に入る入り口から、山沿いの。一
応町道というふうに認識をしております、駐車禁止という認識は残念ながらしており
ません。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 認識の違いかもしれませんが、道路となると車線だけ
じゃなくて、その含まれたところもやっぱり本来駐車すべきところではないと思うので、
それこそ正規な、あそこ御記憶にあると思いますけど、たまたま休みだったんでよかつ
たんですけど、あそこ落石があって非常に危険で、今は防護壁みたいなつくられてま
すけど、それでもいいかいたらまた別問題だと思うので、危険な場所よりか、やっぱ
り従業員さんの財産ですので、安心・安全な場所に駐車できるように確保していただ
けないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には、従来から駐車場の確保っていうのは病院としても、
あるいは福祉保健課としても、あの周辺っていうのはやっぱりなかなか地形的なところ
もあって、ただ、少しずつ拡大し、整備してきたっていうところは現状であります。で
すから、ぱっと見た目からいえば、さっきおっしゃられたように、上がり口の左側に
車両が置いてあるっていうところは私も承知しておりますが、いずれにしても、職員
の皆さんの駐車場、あるいは利用される皆さんの駐車場っていうところを優先的な捉え方
の中で整備しておりますので、どちらかというと職員には御迷惑かけてる部分があるの
かなというふうには思っておりますが、やっぱり病院としても入れ替わりというか、職員
の勤務異動というところもたくさんありますので、そういった意味で、少し多少大目な
ところは必要なかなというふうには認識しておりますが、現状ではそういった、こ
ういう今の形で何とかやってきているという状況でありますので、新たにそういう整備が
可能な土地があるという話になれば、またその辺は検討していきたいというふうに思
っております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 新しい病院の構想の計画もありますので、駐車場の件は
黙認ということで、はい。

続きまして、固定資産税、事業税の、私はちょっと税金の徴収の仕方がよく分からな
くて、これ事業をやめられた方がいらっちゃって、養豚場も含めてですけど、この花見
山もそうなると思うんですが、徴収義務はどこまであるのかっていうことと、税率を
変えられたから、この238万円も増加したんでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） ちょっと待ってください。

高橋議員に申し上げます。先ほど黙認というふうにおっしゃいましたが、この発言は訂正をされませんか。

○議員（2番 高橋 洋志君） 削除してください。

○議長（山本 芳昭君） 訂正をされますか。

○議員（2番 高橋 洋志君） はい。

○議長（山本 芳昭君） 高柴住民課長。

○住民課長（高柴 博昭君） 固定資産税及び法人住民税の税率のほうは変えておりません。固定資産税においては評価のほうをさせていただいて、税額を出させていただいて、請求をいたします。それから、法人住民税については、申告納付となっておりますので、事業の方が決算が終わりまして、2か月以内に申告書及び納付をしていただく形になります。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） そうしますと、花見山についてもですけども、養豚場についても、今度建物がなくなるっていうことではありますが、そうしますとやっぱり収入は減っていくという理解でよろしいのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 仕組み的にはその内容だろうというふうに思っておりますが、一方で、やはり固定資産税であれば内容的に、例えば償却資産あたりっていうところの減免が終わったとか、そういったところで高騰したり、あるいは法人住民税のほうでは、やはり企業の皆さんの収益が上がったというようなケースってありますので、そういった意味で、トータル的には、先ほど申し上げましたけれども、約238万円の増加という形になってるということでもあります。ですから、最終的にはプラス・マイナスがあるっていう話の中で、閉鎖した事業所もありますけれども、トータル的にはそういう内容での増額っていうことで御理解いただければと思います。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 続きまして、町道整備についてお尋ねしたいのですが、生山印賀線の今、宝谷側ですけども、橋梁と護岸がほぼ完成に近づいておりますが、この回答の分を見ると、もうこれ以上の拡張は計画されていないということですが、これで間違いはないのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 説明したとおりでありますので、今現在進行中の改良工事のほうを終了した段階で、生山印賀線につきましては一定の終了という、計画の終了ということでもあります。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 私の希望といたしまして、各校区から中心地に参りますのに、大宮だけが遠回りです。道が整備されていないように思われます。したがって、あ

の線は規格をもうちょっと上げていただいで、対面通行ができる、少なくとも道を整備していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御希望の内容につきましては、確認をさせていただきました。ただ、現状から申し上げますと、町道の改良事業っていうところが、ほかの事業も、場所も、今進行中、あるいは一時停止中みたいな形になってる状況であります。国の予算もなかなか改良工事につきまして、潤沢に交付率があつてわけではなくって、申請に対して50パー、60パーの交付率でありますので、それはうちだけの話ではもちろんないですけども、そういった状況もありますので、当初の計画からやっぱりずれてるっていうか、遅れてるところが全体的なイメージでおつていただくといいのかなと思いますが、現時点では、他の改良事業も進むって言やおかしいが、計画を進めてる段階でありますので、そういったところを優先的にさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 生山印賀線に関しては、やはり対面通行を少なくともできる幅員を確保していただきたいと思つます。

続きまして、燃料高騰対策で、今年度はまだ検討していくというふうに御回答いただきましたが、そのとおりでございますか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 燃料費の高騰あるいは様々な物価高騰も含めてですが、厳しい状況が続いてるふうに認識しております。特にガソリンあるいはガスのところにつきましては、国のほうが9月末の補助金のほうを延長するという形で方向性を出しておりますので、その方向性が8月の終わり頃の見解でしたので、うちとしてどうしようかっていうところは議論は内部のほうでさせてもらいましたけれども、いずれにしてもどういう形になるか、いつになるか分かりませんが、約、なるだろうというような方向性も聞いておりましたので、現予算のほうには上げてないっていうのが経過であります。ただ、全体的に上がつてるのは事実でありますので、そういった意味で、事業系ではなくて、事業系は6月にも若干させていただきましたので、今回は生活支援という形の中で、ガソリンあるいは物価高騰に対しての支援をさせていただきたいというのを今回の補正予算の中で上げさせていただいておりますので。ただ、長期的な1月以降どうなるかって話はまだ分からない段階でありますので、そういったところは注視をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 農業政策についての質問の中で、軽油税の減免とか、その窓口、手続の簡素化というのは、県のほうにお願いはできないものかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 坂本農林課長。

○農林課長（坂本 文彦君） この免税軽油の手続につきましては、県のほうにまず申請をして、その許可を受けたら、次に今度は軽油を購入するための免税証というものを頂くというような形で、それを持って、今度はスタンド等で購入をしていただくという手続になっております。こちら、あくまで税金ということになっておりますので、税の減免ということになりますと、税は義務ということがございますので、これでも一定の手続をした上でということになるとは思いますが、これをさらに簡素化ということにつきましては、なかなか難しいのではないのかなというふうに担当課としては思っております。ただ、農業につきましては、これを使いたいという方がおられましたら、認定農業者や法人でなければならないということにはございませんので、制度を周知することによって使う方が増えてくるということで、農家経営のほうが少しでも改善するということであればよいのかなというふうに思いますので、町のほうも今はホームページ等でリンクのほう等を張っておりませんが、そういったものをしてしながら広報に努めたいというふうに考えております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 最近収穫期に入って、けたの草刈りも非常に忙しくなっておりますが、その中で使う燃料、混合油というのをほぼ使うと思うんですが、この中に占めておる料金の中にガソリン税、揮発油税でございますが、53円80銭、これも消費税別でかかっております。この税金の目的っていうのが道路維持財源に本来使われるべきものが、草刈りとかなんとかにもかかってきてるっていうのは非常に不合理じゃないかと思うんですが、さきに陳情された案件もございまして、これ国に対してになると思うので、陳情も含めてちょっと御検討いただけないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 私自身もこの辺の仕組み、いわゆる税金の目的っていうところがちょっと不勉強であるっていうのが正直なところであります。ですから、議員おっしゃられるように、国への要望っていうところは、それが必要か、必要性の有無っていうところをまずは勉強させていただきながら、御要望に応える内容かどうかの判断をして、また要望が必要なら、そういう形に切り替えていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 私も今年度から広報の職務を拝命いたしております、勉強会いろいろ行かせていただいております。その中で、最近特に勉強させていただいたのが、真実を簡潔に伝えなさいということでございまして、今日質問たくさんさせていただきましたけども、それに沿った形で終われるんじゃないかと思っております。

私の一般質問はこれにて終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

○議長（山本 芳昭君） 以上で高橋洋志議員の一般質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） 以上で本日の日程は全て終了しました。

本日はこれで散会にしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本 芳昭君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって会議を閉じ、散会とすることに決定しました。

ついては、明日、9月6日の本会議は別に通知をしませんので、定刻までに御参集いただきますようお願いいたします。

本日はこれで散会します。長時間お疲れさまでした。

午後3時30分散会
